

C M E S

ANNUAL

REPORT

20 Vol.
016 15

愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 年報

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 年 報

(第 16 号)

2015年

まえがき

平成27年度4月より、武岡英隆教授の後任として愛媛大学沿岸環境科学研究センター（CMES）のセンター長を拝命しました。微力ではありますが、当センターの発展のため全力を尽くす所存でございますので、前センター長と同様の御厚情と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

さて、例年まとめております愛媛大学沿岸環境科学研究センター年報の2015年版を発刊しましたのでお届けします。本誌は主に、平成26年度のCMES活動内容を集録しています。

平成14年度から10年間にわたり推進してきた21世紀COEとグローバルCOEは平成24年3月末で終了し、その後平成24年度に採択された卓越した大学院拠点形成支援補助金「化学物質の環境科学教育研究拠点」のプロジェクトを2年間実施しました。本年報の掲載対象年である平成26年度は大型プロジェクトの空白年度でしたが、本誌に記載したように、CMESは依然として40名を超える教員や研究員そして事務職員が在籍する大組織で、今年度からは新たに5名の兼任教員の参画を依頼するなど、教育研究体制を一層充実しました。学生教育においては、約50名の卒論生・修論生・博論生を輩出するなど、活発な教育活動を展開しました。また、研究活動にも精力的に取り組み、多数の学術論文や学会発表等の業績および外部資金の獲得等に加え、学会および社会における活動、そして国際的活動等もペースダウンすることなく維持・継続しました。

幸いなことに、平成27年5月に申請した文部科学省の共同利用・共同研究拠点事業が採択され、平成28年度から6年間にわたり新たなプロジェクトに挑戦できることになりました。また、平成27年度の上半期には日本学術振興会特別研究員の落合真理博士がリンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣に採択、仲山 慶講師が日本環境毒性学会 CERI 賞を受賞、そして僭越ながら私も日本環境化学会功績賞を受賞するなど朗報が相次ぎ、これまでの大型プロジェクトで培った人材育成と教育研究活動高度化の努力が結実しつつあります。

文部科学省の国立大学改革プログラムにより教育と研究の現場は大きく変化し、地方大学は厳しい格差に曝されています。愛媛大学は地域色の強い教育研究環境にありますが、一方で先端研究セ

ンターを中心に世界に通用する大学としてその存在感を示しており、「国際社会や地域社会に貢献できる人材」、「斯界の発展を牽引できる人材」の確保と育成にも熱心です。CMESのこれまでの実績や活動を継続的に発展させ、地方大学にあっても世界に伍して戦える教育研究環境を更に充実させたいと考えています。今後ともよろしく御指導を賜りますよう、関係各位にお願い申し上げます。

平成27年10月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

センター長 田辺 信介

目 次

まえがき	1
1. 総 説	4
1.1 組 織（平成27年4月現在）	4
1.2 各部門の概要	5
2. 研究者要覧（平成27年4月現在）	7
3. 研究プロジェクト（平成26年度）	17
3.1 科学研究費等	17
3.2 共同研究	20
3.3 受託研究	20
3.4 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等	20
4. 研究成果（暦年で2014に出版、掲載されたもの）	22
4.1 著 書	22
4.2 学協会誌等	22
4.3 学内、所内誌等	26
4.4 一般誌等	26
4.5 報告書等	26
4.6 学会発表等	26
5. 学会及び社会における活動（平成26年度）	37
5.1 併任・委員会委員等	37
5.2 学協会委員等	39
5.3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催）	40
5.4 学会、講演会などの開催（個人）	40
5.5 学会賞等	41
6. 国際的活動（平成26年度）	42
6.1 国際研究プロジェクト	42
6.2 在外研究等	43
6.3 海外調査・国際学会等	43
6.4 外国人客員研究員等	46
6.5 海外からの訪問者	46
6.6 招聘研究員	46
6.7 留学生	46
7. 教育活動（平成26年度）	48
7.1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	48
7.2 講義・集中講義	49
8. 設 備（平成26年度導入）	54
9. 広 報（平成26年度）	55
9.1 CMES ニュース	55
9.2 報道関係	56
9.3 講座、講演会等	56
10. 調査船「いさな」運行状況（平成26年度）	58
11. 研究員名簿（平成26年度）	59
12. 客員研究員名簿（平成26年度）	60
13. 運営委員会（平成26年度）	62
14. センター規則および運営委員会規程	63

1. 総説

1.1 組織（平成27年4月現在）

センター長 : 田辺 信介（平成27年4月より）

環境動態解析部門

教授 : 武岡 英隆
 教授 : 郭 新宇
 教授 : 森本 昭彦（平成27年4月着任）
 准教授 : 加 三千宣
 助教 : 吉江 直樹
 兼任教員（理工学研究科 教授） : 日向 博文（平成27年4月着任）
 * 研究員 : 堤 英輔（平成27年4月より九州大学応用力学研究所 研究員）
 研究員 : 伊藤 雅（平成27年4月着任）
 研究員 : 王 玉成（平成26年6月着任）
 * 研究補助員 : 大塚あかり（平成26年11月より工学部へ配置換）
 研究補助員 : 上城戸香奈
 事務補佐員 : 松本亜紀子（平成27年4月国際連携支援部より配置換）

化学汚染・毒性解析部門

教授 : 田辺 信介
 教授 : 岩田 久人
 教授 : 国末 達也
 准教授 : 野見山 桂
 助教 : 仲山 慶
 助教 : 板井 啓明
 * 特任助教 : 阿草 哲郎（平成27年4月より熊本県立大学環境共生学部 准教授）
 特任助教 : 平野 将司
 兼任教員（農学部 准教授） : 高橋 真（平成27年4月着任）
 研究員 : Nguyen Minh Tue
 日本学術振興会特別研究員 : 落合 真理
 日本学術振興会特別研究員 : 田上 瑠美
 研究補助員 : 満汐 美穂
 研究補助員 : 野見山智子
 技術補佐員 : 渡部はる江（平成26年6月着任）
 研究補助員 : Yoo Jean（平成26年10月着任）
 研究補助員 : 松田 昌子
 事務補佐員 : 倉田 智美
 事務補佐員 : 小倉 美子

生態系解析部門

教授 : 鈴木 聡
 准教授 : 大森 浩二

1. 総説

准教授	: 北村 真一
* 助教	: 横川 太一 (平成27年4月より海洋開発研究機構 研究員)
* 特命准教授	: 濱村奈津子 (平成27年4月より九州大学大学院理学研究院 准教授)
兼任教員 (理工学研究科 准教授)	: 渡辺 幸三 (平成27年4月着任)
兼任教員 (理工学研究科 准教授)	: 三宅 洋 (平成27年4月着任)
兼任教員 (農学部 准教授)	: 渡辺 誠也 (平成27年4月着任)
研究員	: 高部 由季
研究補助員	: 黒木みつ子
研究補助員	: 森 久美子
技術補佐員	: 村上 祥子
事務補佐員	: 金谷 由美

国際・社会連携部門

* 特命教授	: Annamalai Subramanian (平成27年3月退職)
客員教授	: 高菅 卓三 (株式会社島津テクノリサーチ 取締役)
客員教授	: Kurunthachalam Kannan (State University of New York at Albany 教授)
客員教授	: 呉 明柱 (韓国国立全南大学校水産生命医学科 教授)
客員教授	: 大久保規子 (大阪大学大学院法学研究科 教授)
客員准教授	: 金 恩英 (韓国慶熙大学 准教授)

共通

技術専門職員	: 大西秀次郎
技術職員	: 小川 次郎

研究支援部研究拠点事務課

研究支援部長	: 菊川 昭治
研究支援部研究拠点事務課長	: 佐々木 昇 (平成27年4月着任)
研究支援部研究拠点事務課 TL	: 松本 誠一
事務補佐員	: 渡部江利子
事務補佐員	: 中山 真理

※ * は転任または退職した職員を示す。
(平成27年4月現在)

1.2 各部門の概要

環境動態解析部門

研究内容：沿岸海域の環境は、様々な人間活動や気候変動などの影響によって変動する。これらの変動の実態やメカニズムを解明し、将来の沿岸環境の変動を予測することが本部門の目標である。調査船や各種モニタリングシステムによる現地調査、数値シミュレーションなどの手法を用い、他部門とも連携しながらこの目標に向けた各種の課題に取り組んでいる。また、現在の様々な沿岸環境問題のメカニズムを物理学的側面から解明していくことも当部門の研究課題である。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、養殖漁場の物質循環と環境保全、クラゲ類の大量発生と集群メカニズム、黄海・東シナ海の海洋循環、長江河水川水ブリュームの挙動、海岸漂着ゴミの予報実験、瀬戸内海の貧酸素水塊、北太平洋の混合層発達過程、大気海洋結合相互作用、宇和海の環境変遷史解明、熱帯域の大気・海洋相互作用環、力学現象に対する生物学的応

答の非線形性，海洋堆積物変質過程の数理構造，地球システムの気候フィードバック，分野横断的な数理モデリング

化学汚染・毒性解析部門

研究内容：生物蓄積性有害化学物質の汚染モニタリングとリスク評価を通して生態系を保全する方途を提言する。具体的には、内分泌かく乱物質（環境ホルモン）やその代謝物など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質に注目して、環境や生態系汚染の現状と推移，分布・挙動・ゆくえ，生物蓄積の特徴を地域的・地球的視点で解明することを目的としている。また，無脊椎動物・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類などの野生生物や実験動物を対象に，異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し，毒性発現の種多様性や感受性の種差を解明する研究（敏感・鈍感のサイエンス）にも取り組んでいる。

主な研究テーマ：地球規模での大気，水質，堆積物（土壌），生態系汚染の実態解明と動態解析，途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析，廃棄物投棄場やリサイクル施設の化学汚染と影響の解明，野生生物（プランクトン，両生類，爬虫類，魚類，鳥類・哺乳類）の汚染実態の解明と生物濃縮機構の解析およびリスク評価，ヒトの汚染実態解明と健康影響評価，海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測，化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素への影響，核内レセプターの比較機能学的研究，シトクロム P450 およびメタロチオネインの比較機能学的研究，多元的オミックス解析による生物の遺伝子ネットワーク攪乱のモニタリングと新規バイオマーカーの探索，化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその発現メカニズムの解明，毒性影響の感受性を支配する分子機構の解明，野生生物による化学物質の代謝能を評価する研究，*in silico* シミュレーションによる有害化学物質のハイスループットスクリーニング手法の開発

生態系解析部門

研究内容：海洋および陸水を含めた水圏における生物過程の研究を行っている。海洋での物質循環と遺伝子伝播過程における微生物機能に関する研究，海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究，魚類感染症の発症と環境汚染の関連性の研究などに取り組んでいる。また，安定同位体解析による瀬戸内海生態系構造と化学物質の生物濃縮の研究も行なっている。

主な研究テーマ：環境微生物の抗生物質耐性に関する研究，微生物間での遺伝子伝播の研究，魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態，重油汚染の魚類生体防御系への影響，瀬戸内海の生態系構造解析など

国際・社会連携部門

研究および活動の概要：CMES はこれまでも活発な国際的活動を展開してきたが，環境科学の世界的拠点の一つとして発展しつつある現在，その必要性はさらに増している。一方，設立時の目標の一つであった社会貢献についても，環境問題の深刻化の中で CMES に対する期待は一層高まっている。特命教授や外部の客員教員により構成される本部門では，各種の連携研究に加え，若手研究者の国際性涵養のための人材育成や社会科学的視点導入のための教育，国際共同研究，研究者交流および社会連携を推進し，環境情報の公開なども含む多様な活動を展開している。

主な研究テーマと活動内容：残留性有機汚染物質・臭素系難燃剤等による途上国の化学汚染の実態解明，微量環境汚染物質の分析技術開発と未知成分の検索，有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明，化学物質に対する感受性の種差を規定する分子機序の解明と野生生物のリスク評価，魚病制御と水産食品の安全性に関する研究，国際学会におけるプレゼンテーション能力および学術論文作成能力育成のための若手研究者教育，インターンシップや講座等によるキャリアパス支援，途上国出身留学生の支援と留学生教育の高度化推進

2. 研究者要覧

(平成27年4月現在)

環境動態解析部門



武岡 英隆 TAKEOKA Hidetaka

【職名】教授 工学部環境建設工学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科生産環境工学専攻及び先端科学特別コース兼任 学長特別補佐 先端研究・学術推進機構副機構長 同学術企画室長 スーパーサイエンス特別コース長 同環境科学コース長 南予水産研究センター顧問 【電話】089-927-9833 【FAX】089-927-9846 【E-mail】takeoka.hidetaka.mx@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月 京都大学理学部卒業, 昭和51年3月 京都大学大学院理学部研究科修士課程地球物理学専攻修了 【学位】昭和59年3月 京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 土木学会, 4. 海洋気象学会, 5. 水産海洋学会, 6. 日本沿岸域学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 沿岸海域の流動と物質輸送, 2. 豊後水道の急潮と底入り潮, 3. 瀬戸内海の物質循環と生物生産機構, 4. 養殖場の物質循環と環境保全, 5. 地球環境変動の沿岸域への影響, 6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構 【受賞歴】1999年日本海洋学会日高論文賞, 2003年愛媛県政発足記念日知事表彰, 2003年瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰, 2009年原子力安全功労者表彰 (経済産業大臣)



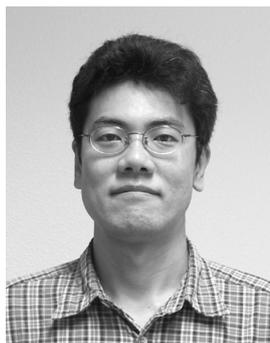
郭 新宇 GUO Xinyu

【職名】教授 理学部地球学科・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9824 【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月 中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月 中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月 博士 (工学) 愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本地球惑星科学連合, 4. American Geophysical Union, 5. American Meteorological Society 【専門分野】1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 東シナ海の流動構造と栄養塩の動態, 2. 瀬戸内海の流動構造と栄養塩の動態, 3. 黒潮流域における栄養塩輸送, 4. 瀬戸内海及び黒潮内側域における水温の経年変動, 5. 日本海高次生態系モデリング 【受賞歴】2014年6月 Reviewing Excellence Award for Continental Shelf Research



森本 昭彦 MORIMOTO Akihiko

【職名】教授 理学部地球科学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9674 【FAX】089-927-9846 【E-mail】morimoto.akihiko.cl@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年愛媛大学工学部海洋工学科卒業, 平成8年愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻修了 【学位】平成12年博士 (理学) 九州大学 【所属学会】日本海洋学会, 日本海洋学会沿岸海洋研究会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 対馬暖流流路の変動に関する研究, 2. 東シナ海から日本海への栄養塩供給が低次生態系に与える影響, 3. 北部タイランド湾の貧酸素の挙動, 4. 分散型海洋レーダの開発



加 三千宣 KUWAE Michinobu

【職名】准教授 理学部地球学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9654

【FAX】089-927-9654 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程（生物地球系専攻）修了 【学位】平成14年3月大阪市立大学大学院博士（理学） 【所属学会】1. 日本第四紀学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本地球化学会, 4. 日本珪藻学会, 5. 日本水産海洋学会, 6. 日本海洋学会沿岸海洋研究会, 7. 地球環境史学会, 8. 日本地球惑星科学連合, 9. American Geophysical Union 【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水学, 3. 古海洋学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 珪藻及び安定同位体比を用いた西南日本沿岸浅海域における基礎生産の気候変動に対する応答, 3. 魚鱗を用いた多獲性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究, 4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻のMg/Ca比を用いた西南日本沿岸浅海域の海洋温暖化に関する研究, 5. 日本沿岸域における高解像度古海洋変動の解明 【受賞歴】2008年日本海洋学会日高論文賞受賞, 2004年日本第四紀学会日本第四紀学会論文賞



吉江 直樹 YOSHIE Naoki

【職名】講師 工学部環境建設工学科兼任 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9846 【E-mail】yoshie.naoki.mm@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月北海道大学水産学部水産化学科卒業, 平成14年9月北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程大気海洋圏環境科学専攻修了 【学位】平成14年9月博士（地球環境科学）北海道大学 【所属学会】1.

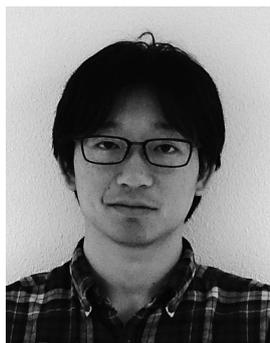
日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本地球惑星科学連合, 4. 水産海洋学会, 5. The American Society of Limnology and Oceanography 【専門分野】1. 生物地球化学, 2. 海洋生態系モデリング, 3. 海洋学, 4. 海洋生物学 【主な研究テーマ】1. 瀬戸内海における低次生態系・物質循環の現場モニタリングおよび数値モデリング, 2. 沿岸域への外洋水進入現象に伴う生態系応答の現場モニタリングおよび数値モデリング, 3. 日本周辺沖合域における低次生態系・物質循環の数値モデリング, 4. 瀬戸内海における藻場の時空間分布に関する研究, 5. 瀬戸内海におけるミズクラゲの時空間分布に関する研究, 6. 瀬戸内海におけるタチウオの時空間分布に関する研究 【受賞歴】2010年日本海洋学会岡田賞, 2011年北太平洋海洋科学機構（PICES）Best Presentation Award



日向 博文 HINATA Hirofumi

【職名】兼任教員（理工学研究科教授） 【電話】089-927-9835 【FAX】089-927-9851 【E-mail】hinata.hirofumi.dv@ehime-u.ac.jp / hinata@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了（1991） 【学位】博士（工学）東京工業大学2000.1.31 【所属学会】土木学会, 日本海洋学会, 水産海洋学会 【専門分野】沿岸海洋学, 海岸工学 【主な研究テーマ】海洋プラスチックの海岸—砕波帯における挙動の解明, 海洋レーダを用いた津波計測に関する研究 【受賞歴】土木学会論文奨励賞（2001）, 日本港湾協会論文賞（2013）

2. 研究者要覧



伊藤 雅 ITO Masashi

【職名】任期付研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】ito.masashi.xo@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月三重大学生物資源学部卒業，平成22年3月名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程修了，平成25年3月名古屋大学大学院環境学研究科博士後期課程修了 【学位】平成25年3月名古屋大学理学博士 【所属学会】日本海洋学会 【専門分野】海洋物理 【主な研究テーマ】対馬暖流の流路，日本海から東シナ海にかけての低次生態系モデルの開発

化学汚染・毒性解析部門



田辺 信介 TANABE Shinsuke

【職名】教授（特別荣誉教授）スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース・大学院医学系研究科兼任 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月名古屋大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会，2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会，3. 日本水産学会，4. 日本農芸化学会，5. 日本極地研究振興会，6. 日本薬学会，7. 日本環境科学会，8. 日本生態学会，9. 日本地球化学会，10. 日本環境化学会，11. 日本環境毒性学会，12. 日本BICER協議会，13. 日本鳥学会，14. 日本哺乳類学会，15. 日本内分泌攪乱化学物質学会，16. 日本化学会，17. 日本微量元素学会，18. 日本セトロロジー研究会，19. 日本ウミガメ協議会，20. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議，21. 東南アジア国際農学会，22. 日本農学アカデミー，23. 環境放射能除染学会，24. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)，25. American Chemical Society 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】1. 生物蓄積性有害物質（PTS）による地球規模の海洋汚染とその動態，ゆくえおよび歴史トレンドに関する環境化学的研究，2. PTSによる海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究，3. PTSによる北海の汚染とアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究，4. PTSによる鳥類の汚染と毒性影響に関する研究，5. PTSによる深海生物の汚染と毒性影響に関する研究，6. マッセルウオッチ：二枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング，7. 魚介類を指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発，8. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究，9. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究，10. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究，11. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究，12. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類，農薬，重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究，13. 途上国におけるヒ素の地下水汚染とヒトへの影響に関する研究，14. 有機臭素化合物等難燃剤による環境汚染，生物蓄積，経年変化，生態影響に関する研究，15. 水酸化代謝物の生物蓄積特性と影響評価に関する研究，16. 生物環境試料バンクを基盤とした国際的・学際的研究 【受賞歴】1985年4月日本海洋学会岡田賞，1999年3月日産科学賞，2000年10月ISI引用最高荣誉賞，2003年12月ベトナム政府フレンドシップメダル，2004年7月日本環境化学会学術賞，2004年10月日本環境科学会学術賞，2005年11月The 2005 SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Founders Award 国際賞，2006年6月日本環境化学会環境化学論文賞，2007年11月Excellence in Review Award for Environmental Science & Technology 国際賞，2007年11月SETAC/Menzie-Cura Environmental Educational Award 国際賞，2009年11月日本学術振興会科学研究費補

助金第一段審査貢献表彰, 2010年6月 Marine Pollution Bulletin Highly Cited Author Award 2005-2009, 2010年11月 Environmental Pollution Highly Cited Author Award 2007-2010 (2編), 2011年4月 紫綬褒章, 2012年1月 愛媛大学特別荣誉教授称号, 2015年2月 Fellow of the Society of Environmental Toxicology and Chemistry Award, 2015年4月 愛媛大学理学部ベストレクチャー賞, 2015年5月 廃棄物資源循環学会 Best Paper Award, 2015年6月 日本環境化学会第24回環境化学功績賞



岩田 久人 IWATA Hisato

【職名】教授 スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻生物環境科学コース及び先端科学特別コース・大学院医学系研究科兼担 【電話】089-927-8172 【FAX】089-927-8172 【E-mail】iwatah@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成6年3月 博士(学術) 愛媛大学 【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境会議, 3. 日本環境化学会, 4. 日本 BICER 協議会, 5. 日本環境毒性学会, 6. 日本獣医学会, 7. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 8. 日本生化学会, 9. 日本分子生物学会, 10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 11. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 環境汚染物質による生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 多元的オミックス解析による環境汚染物質の毒性発現機序の解明, 3. 環境汚染物質による毒性影響の多様性および種特異的感受性を決定する分子機構の解明, 4. シトクロム P450を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価, 5. 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発 【受賞歴】1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology, 2011年7月 第16回生態学琵琶湖賞受賞



国末 達也 KUNISUE Tatsuya

【職名】教授 スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース兼担 【電話】089-927-8162 【FAX】089-927-8171 【E-mail】kunisue.tatsuya.ew@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成16年3月 博士(農学) 愛媛大学 【所属学会】1. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 2. 日本環境化学会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 4. American Chemical Society 【専門分野】環境化学, 機器分析化学 【主な研究テーマ】1. 多様な動物種に対する化学物質の曝露とリスクの評価, 2. 新規環境汚染物質の探索とアジア地域の汚染, 3. ホルモン様物質の分析法開発と環境毒性学への応用

2. 研究者要覧



野見山 桂 NOMIYAMA Kei

【職名】准教授 理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース兼任
【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】keinomi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻博士課程修了 【学位】平成19年3月 熊本県立大学博士（環境共生学）【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. 日本環境化学会, 3. 日本水環境学会, 4. 日本セトロジー研究会, 5. American Chemical Society (ACS), 6. 日本内分泌攪乱化学物質学会【専門分野】1. 水環境化学, 2. 環境分析化学, 3. 異物代謝学【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化代謝物の分析法開発と代謝物をマーカーとした比較生物学的研究, 2. 野生高等生物の肝マイクロゾームを用いた有機ハロゲン化合物の *in vitro* / 代謝系の確立, 3. 哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移行と甲状腺ホルモンへの影響評価, 4. 野生生物に残留する医薬品類および生活関連化学物質 (PPCPs) の蓄積特性に関する研究, 5. 極性環境汚染物質の新規分析法開発, 6. メタボロミクス, プロテオミクスによる有機ハロゲン代謝物の生体影響評価【受賞歴】第15回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞



仲山 慶 NAKAYAMA Kei

【職名】講師 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼任 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8133 【E-mail】kei_n@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年9月 九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士（後期）課程修了 【学位】平成15年9月 博士（農学）九州大学【所属学会】1. 日本環境毒性学会, 2. 日本水産学会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry【専門分野】1. 環境毒性学, 2. 水産化学【主な研究テーマ】1. トキシコゲノミクスおよびメタボロミクスによる化学物質の毒性影響の評価およびメカニズムの解明, 2. 化学物質の複合暴露による毒性影響の評価手法の開発, 3. 複合的な環境要因の変化に対する生体応答の詳細解析, 4. 有機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響の解明【受賞歴】2006年9月第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会奨励賞



板井 啓明 ITAI Takaaki

【職名】特任講師 理学部地球科学科兼任 【電話】089-927-8133 【FAX】089-927-8133 【E-mail】itai@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月 広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻博士課程修了 【学位】平成21年3月 広島大学博士（理学）【所属学会】1. 日本地球化学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本陸水学会, 4. プラズマ分光分析研究, 5. International Association for Geochemistry and Cosmochemistry (IAGC), 6. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 7. Society for Environmental Geochemistry and Health (SEGH)【専門分野】1. 環境無機化学, 2. 地球化学【主な研究テーマ】1. 水圏環境の貧酸化に伴う微量元素の動態変化とその生態影響評価, 2. ヒ素によるアジア地域地下水汚染の実態解明, 3. 大型海洋生物アーカイブの水銀同位体比分析による外洋中メチル水銀の生成過程解明 4. 環境・生体試料中における微量元素の化学形態分析法の確立



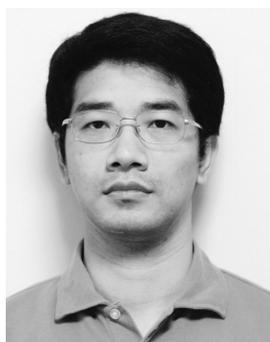
平野 将司 HIRANO Masashi

【職名】特任助教 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】m-hirano@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科博士後期課程修了 【学位】平成21年3月 博士（環境共生学）熊本県立大学 【所属学会】1. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 2. 日本毒性学会 【専門分野】1. 生態毒性学, 2. 食環境安全性学 【主な研究テーマ】無脊椎動物核内受容体と化学物質の相互作用の定量的解析



高橋 真 TAKAHASHI Shin

【職名】兼任教員（農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース 准教授）【電話】089-946-9907 【E-mail】takahashi.shin.mu@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年3月博士（農学）愛媛大学 【所属学会】1. 日本環境科学会会員, 2. 日本環境毒性学, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. 日本環境化学会, 5. 廃棄物資源循環学会, 6. American Chemical Society (ACS), 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境毒性学, 3. 環境安全工学 【主な研究テーマ】1. POPs およびその関連物質による地球環境汚染の実態と時空間分布の解明, 2. アジア途上国等における非制御的廃棄物処理に伴う環境負荷および生体影響の評価, 3. 先端機器分析と生物学的検定法を統合した影響指向の環境評価法の確立と応用 【受賞歴】1. 2014年7月京都大学環境衛生工学研究会最優秀プロジェクト賞, 2. 2015年5月廃棄物資源循環学会論文賞



グエン・ミン・トゥエ Nguyen Minh Tue

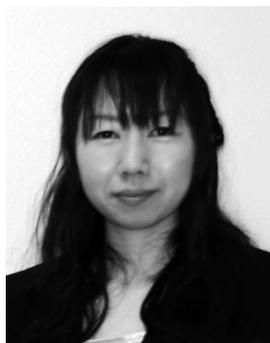
【職名】沿岸環境科学研究センター研究員 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】tuenm@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月 スイス連邦工科大学大学院環境科学修士課程修了 【学位】平成22年9月 愛媛大学博士（理学） 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. アジアの e-waste リサイクル地域における内分泌攪乱物質の人体暴露とリスク



落合 真理 OCHIAI Mari

【職名】日本学術振興会特別研究員 PD 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】ochiai@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成26年3月 愛媛大学大学院理工学研究科環境機能科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成26年3月 博士（理学）愛媛大学 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本セトロジー研究会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 4. The Endocrine Society, 5. The Society for Marine Mammalogy 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境毒性学 【主な研究テーマ】鯨類における有機ハロゲン代謝物の脳内移行とそのリスク評価 【受賞歴】2015年6-7月 第65回リンダウ・ノーベル賞受賞者会議 選抜派遣（文部科学省）, 2013年8月 第22回環境化学討論会 優秀学生賞, 2013年12月 20th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, Student Travel Grant (US\$400), 2013年2月 SETAC 3rd Young Environmental Scientists (YES) Meeting, Travel Grant (€1100)

2. 研究者要覧



田上 瑠美 TANOUÉ Rumi

【職名】日本学術振興会特別研究員 PD 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196
【E-mail】tanoue.rumi.ai@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成27年3月 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 【学位】平成27年3月 博士(理学) 愛媛大学 【所属学会】日本環境化学会 【専門分野】1. 環境科学, 2. 環境分析化学 【主な研究テーマ】1. 微量環境汚染化学物質の分析法開発, 2. 生活関連化学物質の水生生物曝露と影響評価

生態系解析部門



鈴木 聡 SUZUKI Satoru

【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼任 【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-mail】ssuzuki@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月 薬学博士北海道大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本魚病学会, 3. 日本海洋学会, 4. マリンバイオテクノロジー学会, 5. 日本水産学会, 6. 日本生化学会, 7. 国際微生物生態学会, 8. 日本細菌学会, 9. 日本感染症学会 【専門分野】1. 海洋微生物学, 2. 環境分子生物学, 3. 生態系生化学 【主な研究テーマ】1. 海洋中溶存態タンパク質の形成と分解過程に関する研究, 2. 微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究, 3. 緑膿菌の水圏環境での生態 【受賞歴】1999年 日本魚病学会研究奨励賞, 2001年 日本微生物生態学会論文賞



大森 浩二 OMORI Koji

【職名】准教授 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-mail】omori.koji.mj@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月 九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月 理学博士九州大学 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学 【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川・流域生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析



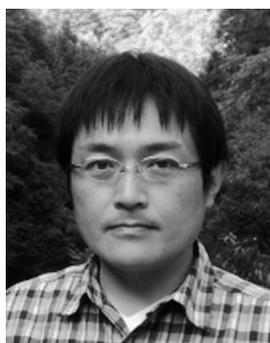
北村 真一 KITAMURA Shin-Ichi

【職名】准教授 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻併任 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-mail】kitamura@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年 高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了 【学位】平成15年3月 博士(水産科学) 北海道大学 【所属学会】1. 日本魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本水産学会 5. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 感染症学, 2. 魚類環境生理学 【主な研究テーマ】1. ヒラメのスクーチカ症に関する研究, 2. 魚類イリドウイルスに関する研究, 3. 魚類体表粘液中のマイクロフローラに関する研究, 4. 環境変化による感染症発生メカニズムの解明, 5. マボヤの被囊軟化症に関する研究, 6. 日本産アゲハチョウの分子進化的研究



渡辺 幸三 WATANABE Kozo

【職名】 兼任教員（理工学研究科 准教授）【電話】 089-927-9847 【FAX】 089-927-9847 【E-mail】 watanabe_kozo@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成17年東北大学大学院工学研究科博士課程後期修了 【学位】 博士（工学）【所属学会】 土木学会，応用生態工学会，日本熱帯医学学会，日本水環境学会 【専門分野】 応用生態工学，分子進化生物学，生態疫学 【主な研究テーマ】 1. DNA 情報を活用した正確・迅速・安価な河川生態系の種多様性評価技術の開発，2. 適応進化の観点から流域環境変化が遺伝子・種レベルの生物多様性に及ぼす影響評価，3. 熱帯ベクター感染症制御を目的とした分子生物学的調査（例，フィリピンとインドネシアのデング熱媒介蚊調査）【受賞歴】 平成26年度地球環境優秀講演賞，日本水環境学会平成21年年間優秀論文賞（メタウォーター賞），平成16年度東北大学総長賞，平成15年度土木学会論文奨励賞



三宅 洋 MIYAKE Yo

【職名】 兼任教員（大学院理工学研究科生産環境工学専攻環境建設工学コース 准教授）【電話】 089-927-9836 【FAX】 089-927-9836 【E-mail】 miyake@cee.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成14年3月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程生物学専攻修了 【学位】 平成14年3月 博士（理学）京都大学 【所属学会】 1. 日本生態学会，2. Society for Freshwater Science，3. 応用生態工学会，4. Ecological Society of America，5. 日本陸水学会，6. 土木学会 【専門分野】 1. 応用生態工学，2. 河川生態学 【主な研究テーマ】 1. 流況が河川生物の広域分布に及ぼす影響の解明，2. 干上がりが河川生物分布・動態に及ぼす影響の解明，3. 河川性底生動物を指標とした河川環境の評価，4. 集水域特性が河川性底生動物群集に及ぼす影響の解明 【受賞歴】 平成14年3月生態学会日本生態学会ポスター発表優秀賞



渡辺 誠也 WATANABE Seiya

【職名】 兼任教員（農学部生物資源学科応用生命科学専門教育コース・連合農学研究科生物資源利用学専攻兼担 准教授）【電話】 089-946-9848 【FAX】 089-946-9848 【E-mail】 irab@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成15年3月北海道大学大学院理学研究科生物学専攻修了 【学位】 平成15年3月博士（理学）北海道大学 【所属学会】 1. 日本生化学，2. 日本農芸化学会，3. 日本生物工学会 【専門分野】 1. 生化学，2. 分子生物学，3. タンパク質工学 【主な研究テーマ】 1. 微生物の新規代謝経路の解明，2. 微生物酵素の産業応用

国際・社会連携部門



高菅 卓三 TAKASUGA Takumi

【職名】客員教授 株式会社島津テクノリサーチ 執行役員 環境事業事業部長 【電話】075-811-3181 【FAX】075-821-7837 【E-mail】t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp 【学歴】昭和60年3月 愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了 【学位】平成13年5月 東京大学博士（農学）、平成15年2月 スウェーデン Örebro 大学名誉博士 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本分析化学会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. 日本水環境学会, 5. 廃棄物資源循環学会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 分析化学, 3. 環境分析化学, 4. 廃棄物処理 【主な研究テーマ】1. 廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究, 2. POPs モニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究, 3. 臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発, 4. GC/MS (EI 及び NCI) 法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究, 5. GC-HR-TOFMS を用いた環境試料の微量有機ハロゲン化合物の検索と同定および高感度・高精度スクリーニング分析, 6. 各種有機ハロゲン化合物等の分析法開発 【受賞歴】1994年6月 日本環境化学会技術賞, 1997年6月 日本環境化学会学術賞, 1999年11月 環境測定分析功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会）, 2003年2月 スウェーデン Örebro 大学名誉博士, 2009年5月 協会功労者賞（社団法人日本環境測定分析協会）



クルンタチャラム・カンナン KANNAN Kurunthachalam

【職名】客員教授 State University of New York at Albany 教授 【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成6年3月 博士（学術）愛媛大学 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), USA, 2. American Chemical Society (ACS), USA, 3. Society of Toxicology (SOT), USA, 4. American Society for the Advancement of Science, USA 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明 【受賞歴】Thomson ISI, Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2005, ranked #8 in 2005, #7 in 2007, Thomson ISI, Highly Cited Researcher- Special Topics- PCBs, ranked #17 in 2003, United States Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) /Weston F. Roy Award in Environmental Chemistry in 1999, Excellence in Review Award by American Chemical Society Journal – Environmental Science and Technology in 2004



呉 明柱 OH Myung-Joo

【職名】客員教授 韓国国立全南大学校水産生命医学科教授 【電話】+82-61-659-3173 【FAX】+82-61-659-3173 【E-mail】ohmj@chonnam.ac.kr 【学歴】北海道大学大学院水産科学研究科博士課程修了 【学位】平成7年3月 水産学博士北海道大学 【所属学会】1. ヨーロッパ魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本魚病学会, 4. 韓国水産学会, 5. 世界水産学会, 6. アジア水産学会, 7. 日本水産学会, 8. 韓国マリンバイオテクノロジー学会, 9. 韓国生物科学会, 10. 韓国微生物学会 【専門分野】1. 魚病学, 2. 病原微生物学 【主な研究テーマ】1. 魚類ウイルス病に関する研究, 2. 食中毒原因病原体の分子疫学 【受賞歴】1. 2004年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries, 2. 2001年 Best poster presentation prize at the European Association of Fish Pathologists (EAFP) 10th International Conference on Diseases of Fish and Shellfish, 3. 2001年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries



大久保規子 OKUBO Noriko

【職名】 客員教授 大阪大学大学院法学研究科教授 【電話】 06-6850-6111 【学歴】 平成5年3月 一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了 【学位】 平成3年9月 MAGISTRA IURIS (法学) ギーセン大学, 平成5年3月 博士(法学) 一橋大学 【所属学会】 1. 日本公法学会, 2. 環境法政策学会, 3. 日本公共政策学会, 4. 日本社会情報学会 【専門分野】 1. 行政法, 2. 環境法 【主な研究テーマ】 1. 環境公益訴訟, 2. 行政訴訟の原告適格, 3. 参加・協働の法理, 4. 水管理法制



金 恩英 KIM Eun-Young

【職名】 客員准教授 韓国慶熙大学准教授 【電話】 089-927-8194 【FAX】 089-927-8194 【E-mail】 eykim@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】 平成9年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】 平成9年3月 博士(学術) 愛媛大学 【所属学会】 1. 日本環境化学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 5. Society of Toxicology 【専門分野】 環境毒性学 【主な研究テーマ】 1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌攪乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの検索

3. 研究プロジェクト

(平成26年度)

3.1 科学研究費等

環境動態解析部門

- 1) 武岡 英隆 (分担), 挑戦的萌芽研究「航空写真観測と数値モデルによるクラゲ集群密度と湾規模の現存量推定手法の開発」, 195千円
概要: 過去のクラゲ集群空撮データから集群の形態の特徴を分析した。
- 2) 郭 新宇 (代表), 基盤研究 (B)「黒潮本流域と黒潮内側域における栄養塩の水平及び鉛直輸送量の解明」, 7,150千円
概要: 黒潮本流域と黒潮内側域をルソン海峡, 東シナ海, 四国沖, 東海沖を4つのサブ領域に分け, それぞれの海域を対象とする数値生態系モデルを作成し, 栄養塩の水平輸送量と鉛直輸送量を調べた。
- 3) 郭 新宇 (分担), 基盤研究 (A)「東シナ海陸棚域における基礎生産と物質輸送を支配する物理・化学・生物過程の研究」, 1,560千円
概要: 東シナ海陸棚域における基礎生産に対して, 起源の異なる栄養塩の役割を直接に評価できる数値生態系モデルの構築を検討した。また, 陸棚域における等深線を横切る交換流量の季節変化と支配メカニズムを調べた。
- 4) 郭 新宇 (分担), 基盤研究 (B) (海外学術調査)「河川流量変化に伴う北部タイランド湾の貧酸素水塊の挙動に関する研究」, 1,560千円
概要: タイランド湾及び北部タイランド湾を対象とする入れ子お流動モデルを構築した。
- 5) 郭 新宇 (分担), 新学術領域「緑辺海の海洋構造に励起される大気海洋相互作用と海洋生態系への影響」, 1,482千円
概要: 瀬戸内海における水温フロントが大気境界層の構造に与える影響を調べた。
- 6) 郭 新宇 (代表), 挑戦的萌芽研究「航空写真観測と数値モデルによるクラゲ集群密度と湾規模の現存量推定手法の開発」, 780千円
概要: 水中カメラ, 魚探, 空撮を用いて宇和海の内湾におけるミグクラゲの水平及び鉛直分布を観測した。
- 7) 加 三千宣 (分担), 基盤研究 (B)「琵琶湖深部の貧酸素化にともなうマンガン・ヒ素大量溶出モデルの構築」, 1,040千円
概要: 琵琶湖の湖底堆積物表層に著しく濃集したマンガンとヒ素が, 湖底溶存酸素濃度の経年的減少にともない湖水に大量溶出するという仮説を検証するため, マンガン・ヒ素の物質循環を明らかにした。
- 8) 加 三千宣 (分担), 基盤研究 (C)「湖沼生態系への人為起源エアロゾルの広域的な影響評価に関する研究」, 910千円
概要: アジア大陸から飛来する大気降水物が我が国の湖沼生態系に及ぼす影響を明らかにするため, 小田の池を対象に湖沼堆積物の古環境解析を行った。
- 9) 吉江 直樹 (分担), 挑戦的萌芽研究「航空写真観測と数値モデルによるクラゲ集群密度と湾規模の現存量推定手法の開発」, 195千円
概要: 宇和海内湾において, 水中ビデオカメラ・計量魚群探知機を用いてミグクラゲの詳細な時空間分布を観測した。
- 10) 吉江 直樹 (代表), 新学術領域「ローカルスケールの大気海洋相互作用が海洋生態系に及ぼす影響の評価」, 2,470千円
概要: 東シナ海および瀬戸内海において, 海洋低次生態系に関する多項目観測を行った。
- 11) PUUSEP.L (代表), 特別研究員奨励費「近過去古陸水学: 日本の淡水湖沼形珪藻群集に影響を及ぼす要因に関する研究」, 300千円

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介 (代表), 基盤研究 (A) 一般「ペット動物の化学汚染：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露実態解明とリスク評価」, 6,500千円
概要：ペット動物のイヌ・ネコに注目し、有機ハロゲン化合物および代謝物の残留実態と蓄積の特徴を解明し、それらの暴露ルートを解析した。
- 2) 田辺 信介 (代表), 基盤研究 (A) 海外「新規 POPs および POPs 代替物質によるアジア地域の汚染実態と時空間分布の解明」, 10,010千円
概要：ベトナムおよびインドの廃棄物リサイクル施設を中心に海外調査を実施し、新規 POPs および POPs 代替物質の現地適応型分析法を開発するとともに、発生源の汚染実態について解析した。
- 3) 田辺 信介 (代表), 挑戦的萌芽研究「東日本大震災による残留性環境化学物質の海洋生物汚染とその長期モニタリングの検証」, 780千円
概要：魚介類を供試して、東日本大震災による有害物質汚染の拡大を時空間的に検証するとともに生態系構造との関連について解析した。
- 4) 田辺 信介 (分担), 基盤研究 (C)「琉球列島隆起サンゴ礁島嶼の環境特性に対応した有害物質汚染調査手法の開発」, 520千円
概要：琉球列島の生物試料に残留するダイオキシン類緑化合物の分析法を開発し、汚染実態解明のための予備的分析を試みた。
- 5) 田辺 信介 (分担), 環境省環境研究総合推進費補助金研究事業「使用済自動車 (ELV) の資源ポテンシャルと環境負荷に関するシステム分析」, 京都大学, 2,400千円
概要：ベトナムの ELV 鉛バッテリーリサイクルに関連した有害金属汚染の実態解明とヒトの健康リスク評価を試みた。
- 6) 田辺 信介 (分担), 環境省環境研究総合推進費補助金研究事業「製品に含まれる化成品及び不純物に由来する有害廃棄物対策と循環方策構築に向けた研究」, 3,250千円
概要：アジア途上国のヒト母乳から有機リン系難燃剤を検出し、その広域汚染の実態を明らかにした。
- 7) 田辺 信介 (分担), 基盤研究 (S)「多元的オミックス解析による化学物質—細胞内受容体シグナル伝達攪乱の種差の解明」, 1,950千円
概要：野生生物における新規 POPs のモニタリングを実施し、その特徴を比較生物学的に解析した。
- 8) 岩田 久人 (代表), 基盤研究 (S)「多元的オミックス解析による化学物質—細胞内受容体シグナル伝達攪乱の種差の解明」, 20,670千円
概要：化学物質による多様な生物の細胞内受容体 - 異物代謝酵素シグナル伝達系の攪乱を指標として、感受性の種差を規定する分子機構について解明した。
- 9) 岩田 久人 (分担), 基盤研究 (A)「ペット動物の化学汚染：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露実態解明とリスク評価」, 1,300千円
概要：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露によるイヌへの毒性影響について調査した。
- 10) 岩田 久人 (代表), 挑戦的萌芽研究「ゲノム—核内受容体の相互作用アレイによる化学物質影響評価系の開発」, 1,560千円
概要：ビスフェノール類がゲノム—核内受容体の相互作用に与える影響を評価する実験系の構築を試みた。
- 11) 国末 達也 (分担), 基盤研究 (S)「化学物質による細胞内受容体—異物代謝酵素シグナル伝達系攪乱の感受性支配因子の解明」, 3,250千円
概要：環境汚染物質として新たに注目されているリン酸エステル系難燃剤について、新規分析法を開発し動物組織への適用を試みた。
- 12) 国末 達也 (分担), 基盤研究 (A) 一般「ペット動物の化学汚染：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露実態解明とリスク評価」, 1,300千円
概要：機器分析法を用いてネコの血中甲状腺ホルモン濃度を測定し、有機ハロゲン化合物および代謝物との関連性を解析した。
- 13) 国末 達也 (分担), 基盤研究 (A) 海外「新規 POPs および POPs 代替物質によるアジア地域の汚染実態と時空間分布の解明」, 1,950千円
概要：ベトナムおよびインドの廃棄物リサイクル施設における難燃剤汚染を調査した。
- 14) 国末 達也 (代表), 基盤研究 (B)「室内残留性化学物質の探索と影響評価—コンパニオンアニマルを指標動

3. 研究プロジェクト

物として一], 5,655千円

概要：新規臭素系難燃剤による室内ダストの汚染実態を解明し、室内ペットの血中臭素系難燃剤濃度と甲状腺ホルモンレベルとの関係を解析した。

- 15) 国末 達也 (分担), 基盤研究 (B) 「死亡漂着鯨類を指標とした化学物質による海洋環境汚染の時空間変動解析と影響評価」, 1,040千円

概要：大村湾のスナメリにおける食物網を介した有機ハロゲン化合物の濃縮機構を解析した。

- 16) 国末 達也 (代表), 挑戦的萌芽研究 「多様な動物種に適用できる内因性ホルモンの高精度分析法の開発」, 1,950千円

概要：限外ろ過と先端分析機器を用いた遊離型甲状腺ホルモンの新規測定法の開発を試みた。

- 17) 板井 啓明 (代表), 基盤研究 (B) 「琵琶湖深部の貧酸素化にともなうマンガン・ヒ素大量溶出モデルの構築」, 1,690千円

概要：琵琶湖湖底の貧酸素化進行にともなう堆積物中のマンガン、ヒ素の湖水への溶出挙動を、観測的・実験的に検証した。

- 18) 野見山 桂 (代表), 若手研究 (A) 「哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移行と甲状腺ホルモンへの影響評価」, 5,460千円

概要：ニホンザルを対象に有機ハロゲン代謝物の脳移行を実証し、その特徴を比較生物学的に解析した。

- 19) 野見山 桂 (分担), 基盤研究 (A) 一般 「ペット動物の化学汚染：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露実態解明とリスク評価」, 1,300千円

概要：ペット血清中の有機ハロゲン物質および水酸化代謝物を分析し、汚染物質の曝露経路および汚染源を推定した。

- 20) 野見山 桂 (分担), 基盤研究 (S) 「多元的オミックス解析による化学物質—細胞内受容体シグナル伝達攪乱の種差の解明」, 1,950千円

概要：LC-MS/MSを用いた血清中のメタボローム分析法を開発し、PCBs曝露に伴う代謝産物の変化を解析した。

- 21) 仲山 慶 (代表), 若手研究 (B) 「化学物質の慢性曝露が病原体感染時のコイの免疫応答に与える影響」, 1,950千円

概要：コイを対象に農薬や下水処理水中に含まれる化学物質を暴露した条件下で、細菌感染に対する免疫応答を解析した。合成糖質コルチコイドの存在下では、炎症反応の抑制が生じることを明らかにした。

- 22) 仲山 慶 (分担), 基盤研究 (B) 「マボヤ被囊軟化症の被囊軟化メカニズムの解明」, 1,690千円

概要：マボヤ被囊軟化症の原因虫である *Azumiobodo hoyamushi* を対象に、次世代シーケンサーを用いた mRNA 配列の解析を行い、被囊軟化に関わる寄生虫遺伝子の同定を進めている。

- 23) 阿草 哲郎 (代表), 挑戦的萌芽研究 「東日本大震災による環境汚染がもたらした海洋生物の汚染物質耐性メカニズムの解明」, 1,560千円

概要：東日本大震災による環境汚染がもたらした生物への遺伝的多様性の影響を遺伝子・タンパク質レベルで調査するため、宮城県の気仙沼湾の現地調査およびカキとアイナメの新鮮な臓器・組織の採取をおこなった。

- 24) 阿草 哲郎 (分担), 基盤研究 (S) 「化学物質による細胞内受容体—異物代謝酵素シグナル伝達系攪乱の感受性支配因子の解明」, 1,300千円

概要：Asの感受性支配因子を同定するため、As曝露させた組換え近交系マウスや途上国のAs汚染地域の住民を対象に、As感受性遺伝子の解析を試みた。

- 25) 平野 将司 (代表), 特別研究員奨励費 「化学物質の生態リスク評価のための新たな無脊椎モデル生物の確立」, 1,430千円

概要：無脊椎動物固有の核内受容体である脱皮ホルモン受容体 (EcR) に着目し、EcRを介したシグナル伝達機構を指標として、環境化学物質のリスクを評価する生態毒性試験を確立する。

- 26) 落合 真理 (代表), 特別研究員奨励費 「鯨類における有機ハロゲン代謝物の脳内移行とそのリスク評価」, 1,820千円

概要：ラットを用いた有機ハロゲン代謝物の *in vivo* 投与試験を実施し、血液から脳・肝臓への移行と経時変化について検討した。ソフトウェアを用いた *in silico* 解析により、環境汚染物質と数種のホルモンの物理化学性、薬物動態、毒性学的パラメーターを解析した。

- 27) Nguyen Minh Tue (代表), 特別研究員奨励費 「ベトナムの樹脂廃棄物リサイクルにより発生する内分泌攪乱物質の動態とリスク評価」, 1,100千円

概要：CALUX を用いてベトナムの樹脂廃棄物リサイクルにより発生する内分泌攪乱物質のヒト暴露実態を解析した。

- 28) 田上 瑠美 (代表), 特別研究員奨励費「野生生物における極性 PPCPs の汚染実態および生態残留性の解明とリスク評価」, 1,000千円

概要：1. 野生の水生生物を対象とした生活関連化学物質 (PPCPs) の生物移行・体内分布解析 2. 試験魚への PPCPs 曝露による影響評価

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聡 (代表), 基盤研究 (A) (一般)「複合汚染環境における薬剤耐性遺伝子の消長とヒト病原菌への伝播リスク」, 5,590千円

概要：金属, 各種抗生物質などの複合汚染に曝された履歴のある環境における薬剤耐性遺伝子の消長と細菌間遺伝子水平伝播を定量的に解明する。バナジウムによる遺伝子水平伝播促進効果は細菌種によって異なることを見いだした。また, 環境では培養不可能菌が特異な耐性遺伝子リザーバとなっていることを解明した。あらたに発見したマクロライド耐性遺伝子は日本だけでなく台湾, タイ国でも検出され, 種々の細菌群集内およびヒト腸内細菌へも伝達することが分かった。そのため広域に拡散すると考えられた。

- 2) 鈴木 聡 (代表), 基盤研究 (A) (海外学術)「人為・自然攪乱された熱帯アジアの水圏環境における抗生物質汚染と薬剤耐性遺伝子の動態」, 6,370千円

概要：台風, 氾濫, 津波, 不法な廃液放流などによって種々の排水や排出物が混合される水圏において, 薬剤と薬剤耐性遺伝子の定量を行なう。H26年度はタイ, バンコク周辺の畜産排水を起源とする抗生物質および耐性遺伝子の拡散実態を明らかにした。ハエが水圏から生活圏への遺伝子運搬者になっている可能性がある。

- 3) 北村 真一 (代表), 基盤研究 (B)「マボヤ被囊軟化症の被囊軟化メカニズムの解明」, 1,820千円

概要：被囊軟化症発生時に減少するタンパク質として, HR-29が同定された。本タンパク質を無細胞タンパク室合成系で大量発現し, 抗体を作製した。本年度は, 本合成タンパク質を用いた分解実験を行う予定である。

- 4) 横川 太一 (代表), 若手研究 (B)「抗生物質流出による水圏微生物群集の応答 解析および腐食食物網への影響評価」, 2,080千円

概要：抗生物質に対する細菌群集の代謝および群集動態の応答を測定し, 生態系における腐食食物網の機能の変化を解析する。

- 5) 横川 太一 (分担), 基盤研究 (A)「海洋中深層における大規模炭素循環を支配する微生物食物網ネットワークの機構論的解明」, 1,170千円

概要：海洋中深層における細菌群集生物量・生産量の時空間分布調査および解析, さらに環境パラメータを予測変数として用いた細菌生物量・生産量モデルの確立を行う。

- 6) Ngyuen Tai Tue (代表), 研究員奨励費「メコンデルタのマングローブ生態系における炭素貯留と循環」, 300千円

概要：マングローブ生態系の生態系における一次生産者としての機能評価と周辺の沿岸海洋生態系に与える影響評価をおこなった。

3. 2 共同研究

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 仲山 慶 (代表), 「水生生物に対する界面活性剤の毒性発現機序研究」, 花王株式会社, 360千円

概要：界面活性剤の魚類に対する毒性影響を解析した。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡, トミオカテント, 330千円

概要：チタン触媒の新規利用法開発。

- 2) 北村 真一, Meiji Seika ファルマ, 1,000千円

概要：魚類感染症の予防に関する研究。

3.3 受託研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆, 「瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発」, 独立行政法人瀬戸内海水産総合研究センター, 880千円
概要: 宇和海沿岸で水温や栄養塩等のモニタリングを行うとともに, 赤潮発生時の環境要因の変化を分析した。
- 2) 郭 新宇, 環境研究総合推進費「日本海高次生態系モデルの構築」, 6,391千円
概要: スルメイカのふ化幼生を対象とし, 東シナ海から日本海への輸送・生残過程を数値モデルで表現し, 日本海におけるスルメイカのふ化幼生資源量の経年変動及び支配要素を調べた。
- 3) 郭 新宇, 「西日本沿岸域の藻場生態系への温暖化の影響評価と高精度予測技術の開発」, 独立行政法人水産総合研究センター, 独立行政法人水産総合研究センター, 4,055千円
概要: 瀬戸内海西部における水温の経年変動及び長期トレンドについて, 観測データを解析し, さらにそれを再現する数値モデルの構築を行った。
- 4) 吉江 直樹, 「黒潮から親潮域における低次生態系モニタリングと小型浮魚類漁業への温暖化影響評価」, 独立行政法人水産総合研究センター, 独立行政法人水産総合研究センター, 1,098千円
概要: 黒潮から親潮域にかけて, 海洋低次生態系モデルの精度向上に関わる研究を行った。

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介, 生物蓄積性内分泌かく乱候補物質によるわが国の野生生物汚染の実態解明, 日本エヌ・ユー・エス株式会社, 3,000千円
概要: ニホンザルから検出された PCBs とその水酸化代謝物の蓄積特性を解析し, リスクを評価した。

生態系解析部門

- 1) 大森 浩二, 伊方原発温排水影響調査事業, 愛媛県, 500千円

3.4 各種研究助成金（民間・財団等）, 奨学寄付金等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 国末 達也 (代表), 住友財団 (環境研究助成)「有機リン酸エステル系難燃剤による母乳汚染と乳児のリスク評価」, 2,500千円
概要: 日本のヒト母乳試料を対象に, 有機リン酸エステル系難燃剤による汚染実態を明らかにした。
- 2) 阿草 哲郎 (代表), 日本生命財団, (テーマ: プロテオーム解析を用いた海棲高等動物における微量元素の毒性および解毒メカニズムの解明 (若手研究助成)), 1,500千円
概要: 本研究では, キタオットセイとクロアシアホウドリの Hg に着目し, HgSe 形成のカギとなる Hg および Se 結合タンパク, あるいは Hg 曝露レベルに依存して発現量に変化するタンパクの同定を試みた。

生態系解析部門

- 1) 大森 浩二, 貯水池の適正管理手法の開発, 財団法人ダム水源地環境整備センター, 700千円
- 2) 濱村奈津子, モンゴル鉱山地域における重金属耐性微生物の分布と多様性調査, 公益財団法人発酵研究所, 1,500千円
概要: モンゴルのウランバートル近辺の鉱山地域における, 重金属耐性微生物の分布と多様性解析を行った。
- 3) 横川 太一 (代表), 住友財団 環境研究助成「生物多様性の消失と生態系基盤サービスの劣化予測: 微小生態系実験を用いた定量的解析」, 2,000千円
概要: 微小生態系実験を用いて細菌群集構造の変化とそれにもなっておきる 細菌群集機能の測定および解析を行う。

- 5) Cai, Z., Liu, Z., Guo, X., Gao, H., Wang, Q.: Influences of intratidal variations in density field on the subtidal currents: Implication from a synchronized observation by multiships and a diagnostic calculation. *Journal of Geophysical Research-Oceans*, 119, 2017–2033, doi:10.1002/2013JC009262.
- 6) Cai, Z., Liu, Z., Chen, Z., Guo, X., Gao, H. : Temporal and spatial distribution of the summertime sea currents in the Jiaozhou Bay mouth. *Periodical of Ocean University of China*, 44 (4), 86-92 (in Chinese with English abstract) .
- 7) Sagawa, T., Kuwae, M., Tsuruoka, K., Nakamura, Y., Ikehara, M., Murayama, M.: Solar forcing of centennial-scale East Asian winter monsoon variability in the mid-to late Holocene. *Earth and Planetary Science Letters*, 395, 124–135.
- 8) Kunihiro, T., Veuger, B., Vasquez-Cardenas, D., Pozzato, L., Guitton, M.L., Moriya, K., Kuwae, M., Omori, K., Boschker, H.T.S., van Oevelen, D.: Phospholipid-Derived Fatty Acids and Quinones as Markers for Bacterial Biomass and Community Structure in Marine Sediments. *PLOS ONE* 9, e96219.

化学污染·毒性解析部門

原 著

- 1) Itai, T., Otsuka, M., Asante, K. A., Muto, M., Opoku-Ankomah, Y., Ansa-Asare, O. D. and Tanabe, S.: Variation and distribution of metals and metalloids in soil/ash mixtures from Agbogbloshie e-waste recycling site in Accra, Ghana, *Science of the Total Environment*, **470-471**, 707-716.
- 2) Eguchi, A., Nomiyama, K., Ochiai, M., Mizukawa, H., Nagano, Y., Nakagawa, K., Tanaka, K., Miyagawa, H. and Tanabe, S.: Simultaneous detection of multiple hydroxylated polychlorinated biphenyls from a complex tissue matrix using gas chromatography/isotope dilution mass spectrometry. *Talanta*, **118**, 253-261.
- 3) Sousa, A. C. A., Pastorinho, M. R., Takahashi, S. and Tanabe, S.: History on organotin compounds, from snails to humans. *Environmental Chemistry Letters*, **12** (1), 117-137.
- 4) Nomiyama, K., Kanbara, C., Ochiai, M., Eguchi, A., Mizukawa, H., Isobe, T., Matsuishi, T., Yamada, T. K. and Tanabe, S.: Halogenated phenolic contaminants in the blood of marine mammals from Japanese coastal waters. *Marine Environmental Research*, **93**, 15-22.
- 5) Noguchi, T., Itai, T., Tue, N. M., Agusa, T., Ha, N. N., Horai, S., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Exposure assessment of lead to workers and children in the battery recycling craft village, Dong Mai, Vietnam. *Journal of Material Cycles and Waste Management*, **16**, 46-51.
- 6) Imaeda, D., Nomiyama, K., Kunisue, T., Iwata, H., Tsydenova, O., Amano, M., Petrov, E. A., Batoev, V. B. and Tanabe, S.: Blood levels of polychlorinated biphenyls and their hydroxylated metabolites in Baikal seals (*Pusa sibirica*) : Emphasis on interspecies comparison, gender difference and association with blood thyroid hormone levels. *Chemosphere*, **114**, 1-8.
- 7) Cruz, A., Henriques, I., Sousa, A. C. A., Baptista, I., Almeida, A., Takahashi, S., Tanabe, S., Correia, A., Suzuki, S., Anselmo, A. M. and Mendo, S.: A microcosm approach to evaluate the degradation of tributyltin (TBT) by *Aeromonas molluscorum* Av27 in estuarine sediments. *Environmental Research*, **132**, 430-437.
- 8) Eguchi, A., Kunisue, T., Wu, Q., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Kannan, K. and Tanabe, S.: Occurrence of perchlorate and thiocyanate in human serum from e-waste recycling and reference sites in Vietnam: association with thyroid hormone and iodide levels. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, **67** (1), 29-41.
- 9) Horai, S., Itai, T., Noguchi, T., Yasuda, Y., Adachi, H., Hyobu, Y., Riyadi, A. S., Boggs, A. S. P., Lowers, R., Guillette, L. J. Jr. and Tanabe, S.: Concentrations of trace elements in American alligators (*Alligator mississippiensis*) from Florida, USA. *Chemosphere*, **108**, 159-167.
- 10) Tuyen, L. H., Tue, N. M., Suzuki, G., Misaki, K., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Aryl hydrocarbon receptor mediated activities in road dust from a metropolitan area, Hanoi-Vietnam: Concentration of polycyclic aromatic hydrocarbons (PAHs) and human risk assessment. *The Science of the Total Environment*, **491-492**, 246-254.
- 11) Tue, N. M., Katsura, K., Suzuki, G., Tuyen, L. H., Takasuga, T., Takahashi, S., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Dioxin-related compounds in breast milk of women from Vietnamese e-waste recycling sites: Levels, toxic equivalents and relevance of non-dietary exposure. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **106**, 220-225.
- 12) Tanoue, R., Nomiyama, K., Nakamura, H., Hayashi, T., Kim, J. W., Isobe, T., Shinohara, R. and Tanabe, S.: Simultaneous determination of polar pharmaceuticals and personal care products in biological organs and tissues. *Journal of Chromatography A.*, **1355**, 193-205.
- 13) Tuyen, L. H., Tue, N. M., Takahashi, S., Suzuki, G., Viet, P. H., Subramanian, An., Bulbule, K. A., Parthasarathy, P.,

- Ramanathan, A. and Tanabe, S.: Methylated and unsubstituted polycyclic aromatic hydrocarbons in street dust from Vietnam and India: Occurrence, distribution and *in vitro* toxicity evaluation. *Environmental Pollution*, **194**, 272-280.
- 14) Coelho, S. D., Sousa, A. C. A., Isobe, T., Tanabe, S. and Nogueira, A. J. A.: Flame retardants in indoor dust - a review on the levels of polybrominated diphenyl ethers and hexabromocyclododecanes. *Current Organic Chemistry*, **18** (17), 2218-2230.
 - 15) Horai, S., Yanagi, K., Kaname, T., Yamamoto, M., Watanabe, I., Ogura, G., Abe, S., Tanabe, S. and Furukawa, T.: Establishment of a primary hepatocyte culture from the small Indian mongoose (*Herpestes auropunctatus*) and distribution of mercury in liver tissue. *Ecotoxicology*, **23** (9), 1681-1689.
 - 16) Nomiyama, K., Hirakawa, S., Eguchi, A., Kanbara, C., Imaeda, D., Yoo, J., Kunisue, T., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Toxicological assessment of polychlorinated biphenyls and their metabolites in the liver of Bikal seal (*Pusa sibirica*). *Environmental Science and Technology*, **48** (22), 13530-13539.
 - 17) Suzuki, G., Tue, N. M., Takahashi, S., Tanabe, S., Sakai, S. and Takigami, H.: Effect-based hazard identification of house dust by *in vitro* assays detecting dioxin-like compounds, thyroid and reproductive toxicants. *Current Organic Chemistry*, **18**, 2231-2239.
 - 18) Kim, J. W., Isobe, T., Muto, M., Tue, N. M., Katsura, K., Malarvannan, G., Sudaryanto, A., Chang, K. -H., Prudente, M., Viet, P. H., Takahashi, S., and Tanabe, S.: Organophosphorus Flame Retardants (PFRs) in human breast milk from several Asian countries, *Chemosphere*, **116**, 91-97.
 - 19) Chen, I., Yu, H. Y., Yang, W. -C., Nishida, S., Isobe, T., Tanabe, S., Watson, A., and Chou, L. S.: The "Southern form" of short-finned pilot whale (*Globicephala macrorhynchus*) in tropical west Pacific Ocean off Taiwan, *Raffles Bulletin of Zoology*, **62**, 188-199.
 - 20) Hisada, A., Shimodaira, K., Okai, T., Watanabe, K., Takemori, H., Takasuga, T., Oyama, M., Watanabe, N., Suzuki, E., Shirakawa, M., Noda, Y., Matsushita, Y., Ariki, N., Kato N., and Yoshinaga, J.: Associations between levels of hydroxylated PCBs and PCBs in serum of pregnant women and blood thyroid hormone levels and body size of neonates. *International Journal of Hygiene and Environmental Health*, **217** (4-5), 546-553.
 - 21) 高菅 卓三 : 津波堆積物中の残留性有機汚染物質の詳細解析 ふんせき, 10月, 572-577,
 - 22) Manh, H. D., Kido, T., Okamoto, R., XianLiang, S., Anh, L. T., Supratman, S., Maruzeni, S., Nishijo, M., Nakagawa, H., Honma, S., Nakano, T., Takasuga, T., Nhu, D. D., Hung, N. N., Son, L. K.: Serum dioxin levels in Vietnamese men more than 40 years after herbicide spraying. *Environment Science & Technology*, **48** (6), 3496-3503.
 - 23) Sun, X. L., Kido, T., Okamoto, R., Manh, H. D., Maruzeni, S., Nishijo, M., Nakagawa, H., Honma, S., Nakano, T., Takasuga, T., Nhu, D. D., Hung, N. N., Son, L. K.: Relationship between dioxin and steroid hormones in sera of Vietnamese men. *Biomarkers*, **19** (3), 236-240.
 - 24) Iida, M., Bak, S. M., Murakami, Y., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Transient suppression of AHR activity in early red seabream embryos does not prevent the disruption of peripheral nerve projection by 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin, *Aquatic Toxicology*, **154**, 39-47.
 - 25) Iwata, H., Yamaguchi, K., Takeshika, Y., Kubota, A., Hirakawa, S., Isobe, T., Hirano, M. and Kim, E. Y. : Enzymatic characterization of *in vitro*-expressed Baikal seal cytochrome P450 (CYP) 1A1, 1A2, and 1B1: Implication of low metabolic potential of CYP1A2 uniquely evolved in aquatic mammals, *Aquatic Toxicology*, **162**, 138-151.
 - 26) Niimi, S., Imoto, M., Kunisue, T., Watanabe, X. M., Kim, E. Y., Nakayama, K., Ysunaga, Ge., Fujise, Y., Tanabe, S. and Iwata, H. : Effects of persistent organochlorine exposure on the liver transcriptome of the common minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*) from the North Pacific, *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **108**, 95-105.
 - 27) Nakayama, K., Inoue, Y., Ikeda, N., Hashizume, N., Murakami, H., Ishibashi, T., Ikeda, H., Isobe, T., Kitamura, S. I. and Suzuki, G.: Uptake and biological effects of synthetic glucocorticoids in common carp (*Cyprinus carpio*), *Marine Pollution Bulletin*, **85**, 370-375.
 - 28) Sugahara, Y., Kawaguchi, M., Itoyama, T., Kurokawa, D., Tosa, Y., Kitamura, S. I., Handoh, I. C., Nakayama, K. and Murakami, Y.: Pyrene induces a reduction in midbrain size and abnormal swimming behavior in early-hatched pufferfish larvae, *Marine Pollution Bulletin*, **85**, 479-486.
 - 29) Iwakiri, S., Song, J. Y., Nakayama, K., Oh, M. J., Ishida, M, and Kitamura, S I.: Host responses of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* with lymphocystis cell formation, *Fish & Shellfish Immunology*, **38**, 406-411.
 - 30) Agusa, T., Trang, P. T.K., Lan, V. M., Anh, D. H., Tanabe, S., Viet, P. H. and Berg, M. : Human exposure to arsenic from

drinking water in Vietnam, *Science of the Total Environment*, 488-489, 562-569.

- 31) 阿草哲郎：ヒ素曝露は寄生虫の薬剤耐性をもたらす，*ファルマシア*，50, 696-697.
- 32) Soejima, M, Agusa, T, Iwata, H, Fujihara, J, Kunito, T, Takeshita, H, Lan, V. T. M., Minh, T. B., Takahashi, S, Trang, P. T. K., Viet, P. H., Tanabe, S and Koda, Y. : HP genotyping of Vietnamese: global distribution of HPdel, complete deletion allele of the haptoglobin gene, *Legal Medicine*, 17, 14-16.

総説等

- 1) Gioia, R., Akindele, A. J., Adebuseye, S. A., Asante, K. A., Tanabe, S., Buekens, A. and Sasco, A. J.: Polychlorinated biphenyls (PCBs) in Africa: a review of environmental levels. *Environmental Science and Pollution Research*, **21** (10), 6278-6289.
- 2) Sousa, A. C. A., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Editorial: Organic contaminants in house dust. *Current Organic Chemistry*, **18** (17), 2181.
- 3) 田辺信介・磯部友彦：臭素系難燃剤によるアジア—太平洋地域の汚染，*地球環境*，**19** (2)，125-134.

生態系解析部門

原著

- 1) Thao, N.V., Obayashi, Y., Yokokawa, T., Suzuki, S. :Coexisting protist-bacterial community accelerates protein transformation in microcosm experiments. *Frontiers in Marine Science*, 1, article 69, doi: 10.3389/fmars.2014.00069
- 2) Cruz, A., Henriques, I., Sousa, A.C.A., Baptista, I., Almeida, A., Takahashi, S., Tanabe, S., Correia, A., Suzuki, S., Anselmo, A.M., Mendo, S. :A microcosm approach to evaluate the degradation of tributyltin (TBT) by *Aeromonas molluscorum* Av27 in estuarine sediments. *Environmental Research*, 132, 430-437, <http://dx.doi.org/10.1016/j.envres.2014.04.031>
- 3) Nonaka, L., Maruyama, F., Onishi, Y., Kobayashi, T., Ogura, Y., Hayashi, T., Suzuki, S., Masuda, M. :Various pAQU plasmids possibly contribute to disseminate tetracycline resistance gene *tet* (M) among marine bacterial community. *Frontiers in Microbiology*, 5, article 152, doi: 10.3389/fmicb.2014.00152
- 4) Muziasari, W.I., Managaki, S., Parnanen, K., Karkman, A., Lyra, C., Tamminen, M., Suzuki, S., Virta, M. :Sulphonamide and trimethoprim resistance genes persist in sediments at Baltic Sea aquaculture farms but are not detected in the surrounding environment. *PloS One*, 9, e92702, doi:10.1371/journal.pone.0092702
- 5) Yoshida, M., Suzuki, S. :Heavy oil exposure increases viral production in natural marine bacterial populations. *Journal of Oceanography*, 70, 115–122. DOI 10.1007/s10872-013-0216-2
- 6) Yoshida, M., Yamamoto, K., Suzuki, S. :Metaproteomic characterization of dissolved organic matters in coastal seawater. *Journal of Oceanography*, 70, 105-113. DOI 10.1007/s10872-013-0212-6
- 7) Hirose, E., Nawata, A., Kumagai, A. and Kitamura, S.I. : *Azumobodo hoyamushi*, the kinetoplastid causing soft tunic syndrome in ascidians, may invade through the siphon wall. *Diseases of Aquatic Organisms*, 109, 251-256.
- 8) Iwakiri, S., Song, J.Y., Nakayama, K., Oh, M.J., Ishida, M. and Kitamura, S.I. : Host responses of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* with lymphocystis cell formation. *Fish and Shellfish Immunology*, 38, 406-411.
- 9) Sugahara, Y., Kawaguchi, M., Itoyama, T., Kurokawa, D., Tosa, Y., Kitamura, S.I., Handoh, I.C., Nakayama, K. and Murakami, Y. : Pyrene induces a reduction in midbrain size and abnormal swimming behavior in early-hatched pufferfish larvae. *Marine Pollution Bulletin*, 85, 479-486.
- 10) Nakayama, K., Inoue, Y., Ikeda, N., Hashizume, N., Murakami, H., Ishibashi, T., Ikeda, H., Isobe, T., Kitamura, S.I. and Suzuki, G. : Uptake and biological effects of synthetic glucocorticoids in common carp (*Cyprinus carpio*). *Marine Pollution Bulletin*, 85, 370-375.
- 11) Lonborg, C., Yokokawa, T., Herndl, G.J., Alvarez-Salgado, X.A. :Production and degradation of fluorescent dissolved organic matter in surface waters of the eastern north Atlantic ocean. *Deep-Sea Research I*, 96, 28-37.
- 12) Miki, T., Yokokawa, T., Matsui, K. : Biodiversity and multifunctionality in a microbial community: a novel theoretical approach to quantify functional redundancy. *Proceedings of the Royal Society B*, 281, 20132498.
- 13) Yan, Y., Yokokawa, T., Motegi, C., Nagata, T. : Large-scale distribution of viruses in deep waters of the Pacific and Southern oceans. *Aquatic Microbial Ecology*, 71, 193-202.
- 14) Hamamura, N., Itai, T., Liu, Y., Damdinsuren, N., Reysenbach, A-L., Inskeep, W.P. : Identification of anaerobic arsenite-

oxidizing and arsenate-reducing bacteria associated with a soda lake in Khovsgol, Mongolia. *Environmental Microbiology Report*, 6, 476-482.

- 15) Sato-Takabe, Y., Hamasaki, K., Suzuki, K. :Photosynthetic competence of marine aerobic anoxygenic phototrophic bacterium *Roseobacter* sp. under organic substrate limitation. *Microbes and Environments*, 29, 100-103.
- 16) Miller, T. W., Bosley, K. L., Shibata, J., Brodeur, R., Omori, K., Emmett, R.: Use of mixing models for Humboldt squid diet analysis: Reply to Field et al. (2014). *Marine Ecology Progress Series*, 500, 287-290.
- 17) Nguyen T. T., Dung, L. V., Nhuan, M.T., Omori, K. : Carbon storage of a tropical mangrove forest in Mui Ca Mau National Park, Vietnam. *Catena*, 121, 119-126.
- 18) Miller T.W., Bosley K.L., Shibata J., Brodeur R.D., Omori K., Emmett R. :Contribution of prey to Humboldt squid *Dosidicus gigas* in the northern California Current, revealed by stable isotope analyses. *Marine Ecology Progress Series*, 477, 123-134.
- 19) Kunihiro, T., Veuger, B., Vasquez-Cardenas, D., Pozzarto, L., Le Guitton, M., Moriya, K., Kuwae, M., Omori, K., Boschker, H. T. S., van Oevelen D. : Phospholipid-derived fatty acids and quinones as markers for bacterial biomass and community structure in marine sediments. *PLoS One*, 9, e96219.
- 20) Hamaoka, H., Miyazaki, H., Nanko, T., Akamatsu, T. Shibata, J., Omori, K. :Spatial variation in feeding habits and carbon source of cutlassfish *Trichiurus japonicas* in the Western Seto Inland Sea, Japan. *Aquaculture Science*, 62, 243-251.

4. 3 学内, 所内誌等

4. 4 一般誌等

4. 5 報告書等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Sousa, A. C. A., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Editorial: Organic contaminants in house dust. *Current Organic Chemistry*, 18 (17), 2181.

4. 6 学会発表等

環境動態解析部門

- 1) Guo, X., Soeyanto, E., Ono, J., and Miyazawa, Y.: Interannual variations of Kuroshio transport in the East China Sea and its relation to Pacific Decadal Oscillation and mesoscale eddy. IOC/WESTPAC 9th International Scientific Symposium, Nha Trang, Vietnam, April 22-25, 2014, Programme and Abstract Book, 98-99.
- 2) Guo, X.: Transport of nutrients by the Kuroshio and its influences on the ecosystem of East China Sea. 10th Cross-strait Ocean Sciences Conference, Taipei, Taiwan, April 28-May 1, 2014, Programme, 10.
- 3) Guo, X., and Zhu, X.-H.: Downstream transport of nutrient by the Kuroshio and its temporal and spatial variations. IMBER Open Science Conference, Bergen, Norway, June 23-27, 2014, Programme, A2.1.O2.
- 4) Guo, X., Wang, Y.C, Zhao, L., and Zhang, J.: Influence of nutrients with different sources on nutrient distribution and primary production in the East China Sea. IMBER Open Science Conference, Bergen, Norway, June 23-27, 2014, Programme, F3.2.O3.
- 5) Masumoto, Y., Guo, X., Hirose, N., Ikeda, M., Mitsudera, H., Miyazawa, Y., Tsumune, D., Uchiyama, Y.: Experimental development of ocean prediction system for accidental radionuclide dispersion. AOGS, Sapporo, Japan, July 28-August 1, 2014, Programme, IG19-D4-PM2-P-017.

4. 研究成果

- 6) Guo, X., Liu, Z., Cai, Z., Gao, H., Wang, Q.: Influences of intra-tidal variations in density field on the sub-tidal currents: Impact from a synchronized observation by multi-ships and a diagnostic calculation. AOGS, Sapporo, Japan, July 28-August 1, 2014, Programme, OS07-D4-PM2-EC-008.
- 7) Yu, X., Guo, X., Takeoka, H.: Fortnightly variation of bottom thermal front gradient and associated circulation in a semi-enclosed sea (Seto Inland Sea). AOGS, Sapporo, Japan, July 28-August 1, 2014, Programme, OS11-D1-PM1-PC-010.
- 8) Yoshie, N., Sakamoto, K., Nakagawa, M., Tsutsumi, E., Guo, X.: Abrupt change in the plankton community in the Kuroshio region of the East China Sea associated with the Kuroshio frontal eddy. AOGS, Sapporo, Japan, July 28-August 1, 2014, Programme, OS14-BG11-D5-AM2-PC-002.
- 9) Zhang, J., Zhao, L., Guo, X., Miyazawa, Y.: The spatiotemporal variations of water exchange flow between the Kuroshio main stream and the East China Sea. AOGS, Sapporo, Japan, July 28-August 1, 2014, Programme, OS18-D5-PM2-P-010.
- 10) Hu Y., Guo, X., Zhao, L. : Long-term trend and interannual variations of water temperature and salinity at a section across the Kuroshio in the East China Sea. 1st August, 2014. AOGS, Sapporo, Japan, July 28-August 1, 2014, Programme, OS18-D5-PM2-P-010.
- 11) Guo, X., Wang, Y.C.: Water and nutrient exchange between the continental shelf and the Kuroshio region in the East China Sea and its transport to downstream of the Kuroshio south of Japan. AOGS, Sapporo, Japan, July 28-August 1, 2014, Programme, BG06-12-13-D4-AM1-PC-007.
- 12) Guo X., E. Soeyanto, and Y. Miyazawa: Interannual variations of Kuroshio transport in the East China Sea and its relation to the Pacific Decadal Oscillation and mesoscale eddies. The 7th Program of the East Asian Cooperative Experiments (PEACE) Ocean Science Workshop. 28-29 October, 2014, Qingdao, China.
- 13) 眞野 能, 郭 新宇, 藤井直紀, 吉江直紀, 武岡英隆: 計量魚群探知機を用いたミズクラゲ現存量推定手法の検討, 日本海洋学会2014年度秋季大会, 2014年09月13日~16日, 長崎大学 (長崎県・長崎市).
- 14) 郭 新宇, 王 玉成, 趙 亮: 黒潮の栄養塩輸送及びその東シナ海の基礎生産に与える影響, 2015年度水産海洋シンポジウム豊かな魚類生産を支える黒潮 —その生物生産の仕組みと変動機構—, 2015年03月21日, 東京海洋大学 (東京都・品川区).
- 15) 眞野 能, 郭 新宇, 藤井直紀, 吉江直紀, 武岡英隆: ミズクラゲの集群形成および現存量に関する研究, 日本海洋学会2015年度春季大会, 2015年03月21日~25日, 東京海洋大学 (東京都・品川区).
- 16) 山本正伸・加三千宣・守屋和桂・吉森正和・阿部彩子・竹村恵二・池原 研・小端拓郎: 別府湾堆積物コアの古水温解析にもとづく過去2900年間の太平洋十年規模変動の復元. 日本第四紀学会2014年大会シンポジウム. 柏, 9月6日
- 17) Omura, A., Ikehara, K., Katayama, H., Usami, K., Irino, T., Kuwae, M., Shirai, M., Ashi, J.: Stratigraphic variations of terrigenous organic carbon ratios in flood and slope failure sediments of marine area, examples from the modern natural disasters of Japan. International Sedimentological Congress, ジュネーブ, 8月
- 18) 加三千宣・山本正伸・杉本隆成・武岡英隆: マイワシ魚鱗記録から見つかった様態の異なる二つのレジームシフト. 日本地球惑星科学連合2014年大会, 横浜, 4月28日.
- 19) 大村亜希子・池原 研・片山 肇・宇佐見和子・入野智久・加三千宣・芦寿一郎: 海域の洪水・斜面崩壊堆積物にみられる陸源有機炭素率の層位変化パターン. 日本地球惑星科学連合2014年大会, 横浜, 4月28日.
- 20) 山田圭太郎・竹村恵二・加三千宣・池原 研・山本正伸: 別府湾におけるイベント堆積物の定量検出. 日本地球惑星科学連合2014年大会, 横浜, 4月28日.
- 21) Takahashi, M., S. Itoh, N. Yoshie, K. Mochida, M. Hori, S. Itakura, and Mingyuan Zhu: Ecosystem responses to anthropogenic activities and natural stressors among inland, shelf and oceanic waters in the western North Pacific, 2014 PICES FUTURE Open Science Meeting, Hawaii, USA., 15th-18th Apr., Oral.
- 22) Yoshie, N., K. Tomita, T. Okunishi, and S. Ito: Numerical analysis of the influences of the meso-zooplankton mortality, Japan Geoscience Union Meeting 2014, Yokohama, Japan, 30th Apr., Oral.
- 23) Yoshie, N., K. Sakamoto, M. Nakagawa, E. Tsutsumi and X. Guo: Abrupt change in plankton community in the Kuroshio region of the East China Sea associated with the Kuroshio frontal eddy, Asia Oceania Geosciences Society Meeting 2014, Sapporo, Japan, 1st Aug., Oral.
- 24) 堤 英輔, 郭 新宇, 吉江直樹, 松野 健, 眞野 能, 中川美和: 伊予灘における鉛直混合: 水温成層時と非成層時の比較, 2014年度海洋学会秋季大会, 長崎, 2014年9月14日, 口頭
- 25) 眞野能, 郭新宇, 藤井直紀, 吉江直樹, 武岡英隆: 計量魚群探知機を用いたミズクラゲ現存量推定手法の検討,

- 2014年度海洋学会秋季大会, 長崎, 2014年9月16日, 口頭
- 26) 吉江直樹: 瀬戸内海の低次生態系機構, 2014年度海洋学会秋季大会 沿岸海洋シンポジウム, 長崎, 2014年9月17日, 口頭, 招待講演
- 27) Yoshie, N., K. Sakamoto, M. Nakagawa, E. Tsutsumi, and X. Guo: Abrupt change in phytoplankton community in the Kuroshio region of the East China Sea associated with the Kuroshio frontal eddy, PICES2014 annual meeting, Yeosu, Korea, 23rd, Oct. poster
- 28) Takahashi, M., S. Itoh, N. Yoshie, and K. Mochida: Regional variations in ecosystem responses to anthropogenic activities and natural stressors in the Seto Inland Sea, PICES2014 annual meeting, Yeosu, Korea, 21st Oct., Oral.
- 29) Ito, S., K. Komatsu, T. Okunishi, A. Takasuka, N. Yoshie, T. Kameda, S. Ohno, K. Watanabe, T. Setou, and H. Kuroda: Global Change effects on Pacific saury distribution and its effects on fisheries, PICES2014 annual meeting, Yeosu, Korea, 24th Oct., Oral.
- 30) Yoshie, N., K. Tomita, T. Okunishi, and S. Ito: Influences of the meso-zooplankton mortality on the lower-trophic level ecosystem, 2nd International Ocean Research Conference, Barcelona, Spain, 18th Nov. Oral
- 31) Ito, S., K. Komatsu, T. Okunishi, A. Takasuka, N. Yoshie, T. Kameda, S. Ohno, and K. Watanabe, Ecosystem modelling approaches to evaluate Global Change effects on Pacific saury, 2nd International Ocean Research Conference, Barcelona, Spain, 18th Nov. Oral, invited
- 32) 島袋寛盛, 吉田吾郎, 吉村 拓, 清本節夫, 八谷光介, 村瀬 昇, 郭 新宇, 吉江直樹, 堤 英輔: 海水温と海藻植生の関係から未来の藻場を予測する, 第12回環境研究シンポジウム 気候変動と科学技術 考えよう地球の未来!, 東京, 11月18日, Poster
- 33) 吉江直樹, 奥西 武, 小松幸生, 伊藤進一, 亀田卓彦, 小埜恒夫, 田所和明, 桑田 晃, 岡崎雄二, 日高清隆, 長谷川徹, 太田尚志: 海洋低次生態系モデル, シンポジウム「地球温暖化による海とさかなの変化」, 東京, 12月4日, Poster
- 34) 清本節夫, 吉田吾郎, 島袋寛盛, 吉村 拓, 八谷光介, 種子田雄, 門田 立, 村瀬 昇, 野田幹雄, 桐山隆哉, 戸澤 隆, 吉江直樹, 郭 新宇, 堤 英輔: 沿岸海域 藻場・沿岸生態系, シンポジウム「地球温暖化による海とさかなの変化」, 東京, 12月4日, 口頭
- 35) 吉江直樹, 坂本 航平, 中川 美和, 佐藤 業大, 堤 英輔: 黒潮フロント渦に伴う東シナ海黒潮域の植物プランクトン群集構造変化, 2014年度九州沖縄地区合同シンポジウム「東シナ海及びその周辺海域のリモートセンシングによる気象・海洋観測」, 沖縄, 12月5日, 口頭
- 36) 吉江直樹, 山田桃太郎, 堤英輔, 郭新宇, 武岡英隆: 西部瀬戸内海における長期モニタリングデータ・ハビタットモデル解析, 第一回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 東京, 2015年3月3日, 口頭, 主催
- 37) 吉江直樹, 眞野能, 堤英輔, 郭新宇, 武岡英隆: 計量魚群探知機による海洋生物のモニタリング, 2015年度海洋学会春季大会 沿岸海洋シンポジウム, 東京, 2015年3月21日, 口頭, 主催
- 38) 吉江直樹: 沿岸研究の未来を切り開く測器開発への提言, 2015年度海洋学会春季大会 沿岸海洋シンポジウム, 東京, 2015年3月21日, 口頭, 主催
- 39) 吉江直樹, 中川美和, 佐藤業大, 堤英輔: 黒潮フロント渦に伴う東シナ海黒潮域の低次生態系変化, 2015年度海洋学会春季大会, 東京, 2015年3月22日, 口頭
- 40) 吉江直樹: うまくゆく異分野間共同研究に向けて, 2015年度海洋学会春季大会 ナイトセッション N1, 東京, 2015年3月22日, 口頭, 招待講演
- 41) 吉田尚郁, 劉茜, 張勁, 森本昭彦, 石坂丞二, 伊藤雅, 広瀬直毅, 高山勝巳, 郭新宇, 吉江直樹: 国際的閉鎖性海域・日本海の海域管理法の開発, 2015年度海洋学会春季大会, 東京, 3月23日, 口頭
- 42) 堤英輔, 郭新宇, 久保田祥隆, 吉江直樹, 武岡英隆: 瀬戸内海における水温と海面熱フラックスの長期変化, 2015年度海洋学会春季大会, 東京, 2015年3月23日, 口頭
- 43) 眞野能, 郭新宇, 藤井直紀, 吉江直樹, 武岡英隆: ミズクラゲの集群形成および現存量に関する研究, 2015年度海洋学会春季大会, 東京, 2015年3月23日, 口頭
- 44) 吉江直樹, 奥西武, 小松幸生, 伊藤進一, 亀田卓彦, 小埜恒夫, 田所和明, 桑田晃, 岡崎雄二, 日高清隆, 長谷川徹, 太田尚志: 低次生態系モデルを用いた親潮・移行域に関する研究, 2015年度海洋学会春季大会 シンポジウム「A-line モニタリングから海洋モニタリングの可能性を探る」, 東京, 2015年3月25日, 口頭, 招待講演

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介：生態系高次生物の POPs 汚染と曝露リスクを地球的視座からみる，第61回日本生態学会シンポジウム「生態系における汚染の動態と影響」，広島市，3月，要旨集，S04-1.
- 2) 板井啓明・兵部唯香・近岡浩介・森下洋平・新典樹・熊谷道夫・中野伸一・田辺信介：琵琶湖北湖底泥からのマンガン・ヒ素の溶出機構，金沢大学環日本海研究センターシンポジウム研究成果報告会，金沢市，3月.
- 3) 板井啓明・兵部唯香・近岡浩介・森下洋平・新典樹・中野伸一・田辺信介：琵琶湖湖底の DO 変化が堆積物-湖水境界のマンガン挙動に及ぼす影響，日本地球惑星科学連合2014年大会，横浜，5月．講演要旨集 AHW28-19.
- 4) 岩田直樹・林篤宏・井上毅・高菅卓三・野馬幸生：低濃度 PCB 廃棄物としての塗膜くず（廃塗膜）中 PCB 分析方法の開発，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，70-71.
- 5) Tuyen, L. H. Tue, N. M., Takahashi, S., Suzuki, G., Viet, P. H., Subramanian, An., Bulbule, K. A. and Tanabe, S.: Methylated polycyclic aromatic hydrocarbons and their contribution to AhR-mediated activities in street dust from Vietnam and India. 第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，78-79.
- 6) 藤森 崇・宇智田（野田）奈津代・鈴木 剛・Tue, N. M., Viet, P. H., 田辺信介，滝上英孝：ベトナムの使用済み鉛バッテリーリサイクルサイト周辺における鉛化学形態の深度分布，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，100-101.
- 7) 宇智田（野田）奈津代・鈴木 剛・染矢雅之・松神秀徳・Tue, N. M.・藤森 崇・Tuyen, L. H.・阿草哲郎・Viet, P. H.・高橋 真・田辺信介・滝上英孝：ベトナム北部の E-waste リサイクル施設における有害金属類の環境排出実態調査（第二報），第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，102-103.
- 8) 八十島誠・上田宏明・中村明広・小森行也・高菅卓三・岡本誠一郎：下水中 NP 類の保存性．第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，138-139.
- 9) 田上瑠美・野見山桂・篠原亮太・田辺信介：魚類に残留する極性 PPCPs の体内分布特性とリスク評価，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，167-168.
- 10) 板井啓明・近岡浩介・森下洋平・新典樹・Slamed, R. A.・中野伸一・熊谷道夫・田辺信介：琵琶湖北湖における溶存酸素濃度の季節変化とマンガン溶出量の関係，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，191-192.
- 11) 寶來佐和子・中北有里子・水川葉月・野見山桂・渡邊 泉・田辺信介・岡本芳晴・国末達也：イヌ・ネコにおける微量元素レベルの特性とその暴露起源の探索，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，193-194.
- 12) 西岡宗一郎・磯部友彦・張 光玟・金 俊佑・仲井邦彦・中田晴彦・田辺信介：東北沖魚類生態系における PCBs, BFRs, PFRs 蓄積レベルの経時変化，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，219-220.
- 13) 後藤哲智・染矢雅之・磯部友彦・高橋 真・田辺信介：瀬戸内海沿岸における塩素化・臭素化およびミックスハロゲン化ダイオキシン類の汚染実態とその起源，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，221-222.
- 14) 西村智椰・藤森 崇・鈴木 剛・阿草哲郎・大下和徹・高岡昌輝・高橋 真・Tue, N. M.・Viet, P. H.・田辺信介・滝上英孝：廃電気・電子製品の野焼き土壌における有機塩素化合物の存在割合，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，242-243.
- 15) 松神秀徳・Tue, N. M.・鈴木 剛・染矢雅之・宇智田（野田）奈津代・藤森 崇・Tuyen, L. H.・阿草哲郎・Viet, P. H.・高橋 真・田辺信介・滝上英孝：ベトナム北部の E-waste リサイクル施設における難燃剤の環境排出実態調査（第二報），第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，246-247.
- 16) 西本 慶・Kim, J. W.・西岡宗一郎・Sudaryanto A.・Ilyas, M.・Slamet R. A.・磯部友彦・田辺信介：リン酸エステル系難燃剤によるインドネシアの母乳汚染，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，258-259.
- 17) 江口哲史・野見山桂・落合真理・水川葉月・長野靖子・神原千佳・中川勝博・田中幸樹・宮川治彦・田辺信介：GC-ECNI/MS による脳・肝臓中水酸化 PCBs の一斉分析法開発，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，278-279.
- 18) 高口倅暉・野見山桂・長野靖子・水川葉月・落合真理・中津 賞・田辺信介：イヌ・ネコにおける PCBs および水酸化代謝物の脳移行，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，280-281.
- 19) 野見山桂・長野靖子・水川葉月・中津 賞・田辺信介：イヌ・ネコに残留する PCBs の代謝・排泄能とその種間比較，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，282-283.

- 20) 辻沢雄将・野見山桂・谷地森秀二・葦田恵美子・田辺信介：ニホンザルにおける水酸化PCBsの蓄積特性：胎盤を介した胎児への移行，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，284-285.
- 21) 水川葉月・池中良徳・野見山桂・田辺信介・宇根有美・伊藤真輝・高江洲昇・長野靖子・中山翔太・石塚真由美：ネコ科動物における有機ハロゲン化合物の代謝能解析，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，286-287.
- 22) 山本恭央・野見山桂・水川葉月・長野靖子・田辺信介：ペットネコにおける有機ハロゲン化合物および水酸化代謝物の汚染実態と曝露源の推定，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，288-289.
- 23) Slamet, A. R., Itai, T., Isobe, T., Sudaryanto, A., Ilyas, M., Setiawan, I. S. and Tanabe, S.: Present status of trace elements contamination in river and marine sediments and fish from Jakarta Bay, Indonesia. 第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，292-293.
- 24) Itai, T., Asante, A. K., Goto, A., Obiri, S., Takahashi, S. and Tanabe, S.: A first order estimate of total metal (loid) s in soil of e-waste recycling site in Accral, Ghana. 第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，294-295.
- 25) 石井千尋・池中良徳・中山翔太・水川葉月・齊藤慶輔・渡邊有希子・田辺信介・野見山桂・林 光武・増田泰・坂本健太郎・石塚真由美：日本に生息する猛禽類における鉛汚染状況の解析，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，318-319.
- 26) 岩田直樹・林 篤宏・井上 毅・高菅卓三：低濃度 PCB 含有廃棄物の測定に関する検討，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，351-352
- 27) Takasuga, T, Nakano, T. and Shibata, Y: Evaluation of new & legacy POPs monitoring techniques in ambient air and results from frequent monitoring at supersite, Japan. 第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，308-309.
- 28) 鈴木 剛・染矢雅之・松神秀徳・宇智田(野田) 奈津代・Tue, N. M.・藤森 崇・Tuyen, L. H.・阿草哲郎・Viet, P. H.・高橋 真・田辺信介・滝上英孝：ベトナム北部の E-waste リサイクル施設におけるダイオキシン類縁化合物の環境排出実態調査(第二報)，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，395-396.
- 29) 田代 豊・後藤哲智・倉橋拓也・福井脩造・田辺信介：沖縄における陸生生物体内の有機塩素化合物濃度，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，405-406.
- 30) 大久保里紗・後藤洋加・磯部友彦・山田 格・田島木綿子・天野雅男・田辺信介：大村湾のスナメリにおける有機ハロゲン化合物の蓄積特性，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，409-410.
- 31) 石田明子・田上瑠美・岡本芳晴・磯部友彦・野見山桂・田辺信介・国末達也：生活関連物質による室内ダストの汚染とペットを指標とした乳幼児への曝露評価，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，483-484.
- 32) 高菅卓三・森 育子・清水 厚・早崎将光，・日下部正和・岩本真二・西川雅高：砂実態解明調査における PAH, POPs 農薬等の継続調査の解析. 第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，495-496.
- 33) 渡邊清彦・八十島誠・高菅卓三：タイロシンおよびその代謝物の分析法と河川での実態. 第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，543-547.
- 34) 中村明広・八十島誠・小森行也・高菅卓三・岡本誠一郎：下水中 LAS 類の保存性. 第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，549-550.
- 35) 高菅卓三・倉谷和代・松下正和・中村一夫：第二世代バイオディーゼル燃料化技術に関する燃料の詳細分析と評価(その2). 第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，631-632.
- 36) 亀井俊紀・板井啓明・田辺信介：東アジア近海における水銀の時空間変動：カツオ試料を用いた解析，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，675-676.
- 37) 小栗朋子・鈴木 剛・松神秀徳・宇智田(野田) 奈津代・Tue, N. M.・Tuyen, L. H.・Viet, P. H.・高橋 真・田辺信介・滝上英孝：マーケットバスケット調査に基づくベトナム・ハノイ住民の一日微量元素摂取量，第23回環境化学討論会，京都，5月，講演要旨集，709-710.
- 38) Tanoue, R., Nomiya, K., Isobe, T., Shinohara, R. and Tanabe, S.: Tissue-specific concentrations of polar pharmaceuticals and personal care products (PPCPs) in wild fish from wastewater discharge area. SETAC Europe 24th Annual Meeting, Basel, Switzerland, May, Programme Book, 82.
- 39) Ochiai, M., Nomiya, K., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Makara, M., Amano, M. and Tanabe, S.: Chronic exposures of persistent organic pollutants (POPs) and their hydroxylated metabolites in the brain of free-ranging toothed and baleen whales. SETAC Europe 24th Annual Meeting, Basel, Switzerland, May, Programme Book, 259.
- 40) 田辺信介：地球規模の海洋汚染と鯨類の健康リスク，日本セトロジー研究会第25回(松山)大会，松山市，5月，

4. 研究成果

発表要旨集, 10.

- 41) 大久保里紗・磯部友彦・国末達也・山田 格・田島木綿子・天野雅男・田辺信介：大村湾のスナメリ (*Neophocaena phocaenoides*) に蓄積する有機ハロゲン化合物の蓄積レベルと寄生虫感染症, 日本セトロロジー研究会第25回(松山)大会, 松山市, 5月, 発表要旨集, 24.
- 42) 磯部友彦・久米奈緒子・田辺信介・天野雅男・山田 格・田島木綿子：南さつま市に集団座礁したスジイルカの残留性有機ハロゲン化合物の汚染実態, 日本セトロロジー研究会第25回(松山)大会, 松山市, 5月, 発表要旨集, 25.
- 43) Tuyen, L. H., Tue, N. M., Takahashi, S., Suzuki, G., Viet, P. H., Subramanian, An., Bulbule, A. and Tanabe, S.: Methylated polycyclic aromatic hydrocarbons and their contribution to AhR-mediated activities in street dust from Asian cities. Urban Environmental Pollution 2014, Toronto, Canada, June, Program Booklet, 5.
- 44) 田辺信介：残留性有機汚染物質による地球規模の環境汚染と高次生物の曝露リスク, 第41回日本毒性学会学術年会教育講演, 神戸市, 7月, プログラム・要旨集, S18.
- 45) Takasuga, T.: GC-HRMS & GC-TOF/MS techniques for the analysis of Dioxins or POPs in human sample Metabolomics; Biomarker searching by GC-MS and LC-MS/MS. Vietnam – Japan Joint Seminar “Sharing Experience on Dioxin Analysis and Human Health Risk Assessments”, Hanoi, Vietnam, August.
- 46) Takasuga, T.: GC-HRMS Analysis for POPs and new POPs with GC-TOF/MS techniques - application for environmental and human sample, JSPS (Stockholm) Symposium: New technologies and results for the analysis of persistent pollutants and pharmaceuticals in the environment. Örebro University, MTM Research Center Örebro University (HSM), Sweden, August.
- 47) Takasuga, T.: GC-HRMS analysis for POPs and new POPs with GC-TOF/MS techniques - capability and research for GC-HRMS (10 Autospec) for POPs application for environmental and human sample -. Waters' Users Meeting at DIOXIN 2014, Madrid, Spain, August.
- 48) Sousa, A. C. A., Coelho, S. D., Pastorinho, M. R., Barros, A. R., Nogueira, A. J. A., Taborda-Barata, L., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Levels of organotin compounds in diet samples from Portugal - preliminary results from a duplicate diet study. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, 637-640.
- 49) Coelho, S. D., Sousa, A. C. A., Nogueira, A. J. A., Isobe, T. and Tanabe, S.: Levels of brominated flame retardants, polychlorinated biphenyls and organochlorine pesticides in diet samples from Aveiro University community, Portugal. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, 740-743.
- 50) Tue, N. M., Goto, A., Takahashi, S., Itai, T., Asante, K., Nomiya, K. and Tanabe, S.: Halogenated polyaromatics in soil from an e-waste burning site in Ghana. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, 950-953.
- 51) Nishimura, C., Fujimori T., Suzuki G., Agusa, T., Takaoka, M., Takahashi, S., Tue, N., Viet, P., Tanabe, S. and Takigami, H.: Percentage contributions of chlorinated aromatic compounds in electronic waste open burning soils. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, 1038-1041.
- 52) Matsukami, H., Tue, N. M., Suzuki, G., Someya, M., Tuyen, L. H., Agusa, T., Viet, P. H., Takahashi, S., Tanabe, S. and Takigami, H.: Emissions of PBDEs and alternative aryl phosphates around e-waste recycling area in the northern part of Vietnam. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, 1108-1111.
- 53) Takahashi, S., Takayanagi, C., Tue, N. M., Tuyen, L. H., Suzuki, G., Viet, P. H., Tanabe, S. and Sakai, S.: PCBs, PBDEs and dioxin-related compounds in floor and house dust from end of life vehicle recycling sites in Northern Vietnam: comparison with electronic waste recycling sites. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, 1172-1175.
- 54) Isobe, T., Kume, N., Amano, M., Tajima, Y., Yamada, T. and Tanabe, S.: Chlorinated and brominated persistent organic pollutants in mass stranded striped dolphins (*Stenella coeruleoalba*) from Minamisatsuma, Japan. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, 1434-1437.

- 55) Takasuga T, Nakano T. and Shibata Y.: POPs Monitoring techniques in ambient air and results from frequent monitoring at super site, Japan. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, P-1054.
- 56) Takasuga T, Nakano T. and Shibata Y.: Identification of PCB congeners by unintentional formation. The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2014), Madrid, Spain, August-September, *Organohalogen Compounds*, **76**, P-1205.
- 57) Itai, T., Hyobu, Y., Chikaoka, K., Morishita, Y., Shin, Y., Riyadi, A.S., Fukushi, K., Nakano, S., Tanabe, S.: Seasonal variation of manganese release from sediment of the monomictic lake. -A case study in the Lake Biwa, Japan -, The 17th International Conference on Heavy metals in the Environment (ICHMET), Guiyang, China, September.
- 58) Itai, T., Yasuda, Y., Ota, M., Urakami, S., Isobe, T., Matsuishi, T., Amano, M., Tajima, Y., Yamada, T.K., Tanabe, S.: Distribution of mercury and selenium in brain, liver, and muscle of three cetaceans -Implication for the choice of organ to the ecotoxicological monitoring-, The 17th International Conference on Heavy metals in the Environment (ICHMET), Guiyang, China, September.
- 59) Takahashi, S., Takayanagi, C., Tue, N. M., Tuyen, L. H., Suzuki, G., Viet, P. H., Sakai, S. and Tanabe, S.: Dioxin-related compounds and POPs in floor dust from ELV recycling sites in northern Vietnam: comparison with e-waste recycling sites. End-of-Life Vehicle (ELV) Recycling Workshop 2014, Tokyo, Japan, September, Program Booklet, 5. 171-185.
- 60) Kunisue, T.: Dioxin pollution in Asian emerging countries. (Invited lecture), Eco-friendly Technology Workshop, The Electrochemical Society of India, Bangalore, India, September.
- 61) 田上瑠美・野見山桂・磯部友彦・篠原亮太・田辺信介：野生魚類における医薬品類およびパーソナルケア製品由来化学物質（PPCPs）の残留特性と体内挙動，彦根市，9月，第17回日本水環境学会シンポジウム講演集，46.
- 62) 磯部友彦・Kim, J. W.・中山祥嗣・田辺信介：リン酸エステル系難燃剤・ベンゾトリアゾール系UV吸収剤のハウスダスト中残留レベル，つくば市，9月，環境科学会2014年会，プログラム・講演要旨集，216.
- 63) 田辺信介：有害物質による環境汚染と生態リスクを地球的視座からみる（特別講演），第59回日本未熟児新生児学会，松山市，11月，日本未熟児新生児学会雑誌，26（3），80.
- 64) Itai, T.: Interannual decrease of hypolimnetic oxygen level and its effect on Mn and As release from sediment in Lake Biwa, Japan, EAWAG seminar, Kastanienbaum, Switzerland, November.
- 65) Tanoue, R., Nomiyama, K., Shinohara, R. and Tanabe, S.: Fate and distribution of pharmaceuticals and personal care products in wild fish from wastewater discharge area, Japan. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 35th Annual Meeting, Vancouver, British Columbia, Canada, November, Abstract Book, 11.
- 66) Kunisue, T., Ishida, A., Okamoto, Y. and Tanabe, S.: Contamination of indoor dust and exposure assessment for pet animals by personal care products. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 35th Annual Meeting, Vancouver, British Columbia, Canada, November, Abstract Book, 339.
- 67) Nomiyama, K., Mizukawa, H., Nakatsu, A., Takaguchi, K. and Tanabe, S.: Interspecies differences of PBDEs metabolic capacity and excretion in the dog and cat. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 35th Annual Meeting, Vancouver, British Columbia, Canada, November, Abstract Book, 409.
- 68) Tanabe, S.: Contamination by brominated flame retardants in the Asia-Pacific region (Plenary Lecture). International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014 (ICAEC2014), Bangkok, Thailand, November, Programs and Abstracts, xiv.
- 69) Takasuga T, Nakano T. and Shibata Y.: POPs Monitoring techniques in ambient air and results from frequent monitoring at super site, Japan. International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014 (ICAEC2014), Bangkok, Thailand, November, Programs and Abstracts, 160-163.
- 70) Nomiyama, K., Hirakawa, S., Eguchi, A., Kanbara, C., Imaeda, D., Jean, U., Kunisue, T., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Toxicological assessment of polychlorinated biphenyls (PCBs) and their metabolites (OH-PCBs) in the liver of wild Baikal seals (*Pusa sibirica*) : Application of microarray and biochemical analysis. International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014 (ICAEC2014), Bangkok, Thailand, November, Programs and Abstracts, 303.
- 71) Sudaryanto, A., Ilyas, M., Riyadi, A. S., Isobe, T. and Tanabe, S.: Atmospheric concentrations of persistent organic pollutants (POPs) using passive air sampler in Batam Island, Indonesia. International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014 (ICAEC2014), Bangkok, Thailand, November, Programs and Abstracts, 380-382.

4. 研究成果

- 72) Coelho, S. D., Sousa, A. C. A., Pastorinho, M. R., Nogueira, A. J. A., Taborda-Barata, L., Itai, T., Riyadi, A. S., Kamei, T., Isobe, T. and Tanabe, S.: Lead dietary intake by an academic community. II Jornadas Ibéricas de Toxicologia Clínica, Covilhã, Portugal, November, Abstracts, 9.
- 73) 西岡宗一郎・磯部友彦・国末達也・Chang, K. H.・Kim, J. W.・仲井邦彦・中田晴彦・田辺信介：東北沖魚類生態系における PCBs, BFRs, PFRs, BUVSs の蓄積レベル—2007年から2013年の経年変化—, 環境ホルモン学会第17回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 71.
- 74) 田村沙弥・Jean Y.・水川葉月・阿草哲郎・平野将司・野見山桂・田辺信介：ポリ塩化ビフェニル (PCBs) 曝露によるイヌ異物代謝酵素シトクロム P450への影響, 環境ホルモン学会第17回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 106.
- 75) 野見山桂・平川周作・江口哲史・今枝大輔・Jean, Y.・国末達也・岩田久人・田辺信介：バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) における水酸化 PCBs の毒性影響評価, 環境ホルモン学会第17回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 107.
- 76) 辻沢雄将・野見山桂・谷地森秀二・葦田恵美子・田辺信介：ニホンザルにおける水酸化 PCBs の蓄積特性：胎盤を介した胎児への移行, 環境ホルモン学会第17回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 108.
- 77) 田辺信介：有害物質による環境汚染と生態リスクを地球的視座からみる—ヒトとイルカの汚染はどちらが深刻か— (特別講演), 第7回富山環境プロジェクトフォーラム 地球的視座をもった「高低差4,000m 富山環境プロジェクト」をめぐって, 富山市, 12月.
- 78) 国末達也：LC-MS/MS を用いた甲状腺ホルモン測定と環境毒性学への応用 (特別講演), 日本化学会中国四国支部 愛媛地区化学講演会, 松山市, 12月.
- 79) 岩田直樹・木邑奈美・林 篤宏・井上 毅・高菅卓三：高分解能質量分析計 (GC-HRMS) を用いた食品中多環芳香族炭化水素 (PAH) の迅速分析法開発, 第108回 日本食品衛生学会学術講演会, 金沢市, 12月, 要旨集, 71.
- 80) 北野理基, 中川勝博, 宮川治彦, 岩田直樹, 高菅卓三: GC/MS/MS を用いた食品中多環芳香族炭化水素の分析, 第108回 日本食品衛生学会学術講演会金沢市, 12月, 要旨集, 72.
- 81) 里中美穂, 仲山 慶, 北村真一, 岡本信明: リンホシスチス耐性ヒラメのウイルス性出血性敗血症ウイルスに対する感受性, 平成26年度日本魚病学会春季大会, 3月, 函館, 要旨集, 112.
- 82) Agusa, T., Kunito, T., Tue, N. M., Lan, V. T. M., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Fujihara, J., Takeshita, H., Takahashi, S., Viet, P.H., Tanabe, S., Iwata, H.: Relationship between mRNA expression level and SNPs of AS3MT in residents from arsenic-contaminated areas in Vietnam, The Society of Toxicology (SOT) 54th Annual Meeting, May, San Diego, USA, Abstract, 1974.
- 83) Ochiai, M., Nomiya, K., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Makara, M., Amano, M. and Tanabe, S.: Chronic exposures of persistent organic pollutants (POPs) and their halogenated metabolites in the brain of free-ranging toothed and baleen whales, SETAC Europe 2014 24th Annuals Meeting, May, Basel, Switzerland, Program Book, 216 (Abstract No. TU045).
- 84) 阿草哲郎, 國頭 恭, Nguyen Minh Tue, Vi Thi Mai Lan, Tu Binh Minh, Pham Thi Kim Trang, 藤原純子, 竹下治男, 高橋 真, Pham Hung Viet, 田辺信介, 岩田久人: AS3MT 遺伝子多型と無機ヒ素のメチル化能力との関係, 第84回日本衛生学会学術総会, 5月, 岡山, 日本衛生学雑誌, 69, S167.
- 85) 阿草哲郎, 安木進也, 池本徳孝, 國頭 恭, 馬場徳寿, 田辺信介, 岩田久人: キタオットセイ (*Callorhinus ursinus*) の肝臓における水銀結合タンパク質の探索, 第23回環境化学討論会, 5月, 京都, 要旨集 CD, 316-317.
- 86) 芳之内結加, 清水沙千子, 李 鎮善, 平野将司, 阿草哲郎, 鈴木賢一, 中田晴彦, 金 恩英, 岩田久人: DDTs・ビスフェノール類によるバイカルアザラシ・マウスエストロゲン受容体転写活性化能の評価, 第23回環境化学討論会, 5月, 京都, 要旨集 CD, 266-267.
- 87) 落合真理, 野見山桂, 磯部友彦, 山田 格, 田島木綿子, 真柄真実, 天野雅男, 松石 隆, 田辺信介: ヒゲクジラ・ハクジラ類における OH-PCBs および OH-PBDEs の蓄積特性と脳移行, 第23回環境化学討論会, 5月, 京都, 要旨集 CD, 407-408.
- 88) 落合真理, 野見山桂, 磯部友彦, 山田 格, 田島木綿子, 真柄真実, 天野雅男, 松石 隆, 田辺信介: ハクジラ・ヒゲクジラ類の脳に残留する有機ハロゲン代謝物, 第25回日本セトロジー研究会, 5月, 松山, 要旨集, 26.
- 89) 阿草哲郎, 安木進也, 池本徳孝, 國頭 恭, 馬場徳寿, 田辺信介, 岩田久人: 海棲哺乳類の肝臓における Hg

- 結合タンパク質, 第25回日本微量元素学会, 7月, 岡山, プログラム・抄録集, 66
- 90) 阿草哲郎, 高木 梢, Todd W Miller, 久保田領志, 阿南弥寿美, 岩田久人, 田辺信介: 海棲高等動物はどのように水銀を解毒しているのか?, 第33回生体と金属・化学物質に関する研究会(チョークトーク2014), 8月, 藤沢, 要旨集無し
- 91) Hwang, J. H., Park, H. J., Park, J. Y., Bak, S. M., Park, Y. S., Hirano, M., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Ecological factors as pressure of natural selection of AhR genotypes in avian species, DIOXIN Madrid 2014 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, September, Madrid, Spain, Program Book, 78 (Abstract (USB) No. 898).
- 92) Yoshinouchi, Y., Shimizu, S., Suzuki, K., Lee, J. S., Nakata, H., Hirano, M., Kim, E. Y., Agusa, T. and Iwata, H.: *In vitro* and *in silico* assessment of transactivation potencies of Baikal seal estrogen receptors α and β by persistent organic pollutants and bisphenols, DIOXIN Madrid 2014 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, September, Madrid, Spain, Program Book, 85 (Abstract (USB) No. 894).
- 93) Tamura, S., Yoo, J., Nomiya, K., Mizukawa, H., Tanabe, S., Agusa, T., Kim, E. Y., Hirano, M. and Iwata, H.: Effects of polychlorinated biphenyls on the expression of cytochrome P450s in beagle dogs, DIOXIN Madrid 2014 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, September, Madrid, Spain, Program Book, 85 (Abstract (USB) No. 985).
- 94) Hirano, M., Uchida, M., Kusano, T., Arizono, K., and Iwata, H.: RNA-seq analysis of the mysid crustacean transcriptome following exposure to naturally occurring 1,3,7-tribromodibenzo-*p*-dioxin, DIOXIN Madrid 2014 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, September, Madrid, Spain, Program Book, 85 (Abstract (USB) No. 1004).
- 95) Bak, S.M., Iida, M., Iwata, H., Kim, E.Y.: Isoform Specific Induction of aryl hydrocarbon receptor by TCDD in the red seabream, September, Madrid, Spain, Program Book, 85
- 96) 北村真一, 野澤昭乃, 仲山 慶, 山田力志, 澤田 均, 広瀬裕一, 縄田 暁: マボヤ被囊軟化症の被囊軟化機構に関する研究 ~病原鞭毛虫からのプロテアーゼ検出と軟化時に量的変化する被囊タンパク質の探索~, 平成26年度日本魚病学会秋季大会, 9月, 福岡, 要旨集, 12.
- 97) 伊藤沙耶美, 植崎幸恵, 仲山 慶, 北村真一, 大林由美子: スクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* における細胞外プロテアーゼの役割, 平成26年度日本魚病学会秋季大会, 9月, 福岡, 要旨集, 13.
- 98) 木村 圭, 奥田修二郎, 仲山 慶, 高橋文雄, 山口晴生, 紫加田知幸, 坂本節子, 山口峰生, 外丸裕司: 有害渦鞭毛藻 *Karenia mikimotoi* の網羅的遺伝子発現解析に基づく毒関連遺伝子の探索, 平成26年度日本水産学会秋季大会, 9月, 福岡, 講演要旨集, 37.
- 99) 川口将史, 柴田淳也, 川西亮太, 曾我部篤, 仲山 慶, 山本直之, 大森浩二, 須藤文和, 一條裕之, 松本浩司, 村上安則: ヨシノボリ属の求愛行動を制御する神経基盤の解析, 日本動物学会第85回仙台大会, 9月, 仙台, 予稿集, 127.
- 100) 仲山 慶, 池田宏文, 今宿 圃, 佐藤健太郎, 北村真一: 細菌性感染症に対するコイの免疫応答に及ぼす化学物質の影響, 第20回日本環境毒性学会研究発表会, 9月, 富山, 講演要旨集, 60.
- 101) 佐藤健太郎, 仲山 慶, 磯部友彦, 鈴木 剛: 下水処理場放流水における糖質コルチコイドのモニタリング ~活性評価および寄与物質の同定~, 第20回日本環境毒性学会研究発表会, 9月, 富山, 講演要旨集, 5.
- 102) 仲山 慶, 佐藤健太郎, 北村真一, 磯部友彦, 鈴木 剛: 下水処理水中の糖質コルチコイドの同定とリスク評価, 第17回日本水環境学会シンポジウム, 9月, 彦根, 講演集, 43.
- 103) 佐藤健太郎, 仲山 慶, 磯部友彦, 鈴木 剛: UHPLC-MS/MS を用いた糖質コルチコイドのモニタリング, 第17回日本水環境学会シンポジウム, 9月, 彦根, 講演集, 46.
- 104) Suzuki, G., Sato, K., Isobe, T., Brouwer, A. and Nakayama, K.: Glucocorticoid receptor (GR) agonist profiling in the effluents from sewage treatment plants in Japan, SETAC North America 35th Annual Meeting, November, Vancouver, Canada, Abstract Book, 261.
- 105) Nakayama, K., Sato, K., Ikeda, H., Imajuku, D., Kitamura, S. I., Isobe, T. and Suzuki, G.: Risk evaluation of glucocorticoids discharged from sewage treatment plants in Japan: Effects on the response to bacterial infection in fish, SETAC North America 35th Annual Meeting, November, Vancouver, Canada, November, Abstract Book, 284.
- 106) Ochiai, M., Nomiya, K., Isobe, T., Yamada, T.K., Tajima, Y., Makara, M., Amano, M. and Tanabe, S.: PCBs, PBDEs and their hydroxylated metabolites in the brain of free-ranging toothed and baleen whales, 6th Bilateral Seminar Japan-Italy 2014, November, Palermo, Italy, Program & Abstracts, 18.

4. 研究成果

- 107) 芳之内結加, 清水沙千子, 李 鎮善, 平野将司, 阿草哲郎, 鈴木賢一, 中田晴彦, 金 恩英, 岩田久人: バイカルアザラシ エストロゲン受容体 $\alpha \cdot \beta$ 転写活性化能の評価: 種差と E2 誘導等価係数, 環境ホルモン学会 第17回研究発表会, 12月, 東京, 要旨集, 53.
- 108) Hirano, M., Uchida, M., Kusano, T., Arizono, K. and Iwata, H.: Effects of a naturally occurring dioxin, 1,3,7-tribromodibenzo-*p*-dioxin on the mysid transcriptome, 環境ホルモン学会 第17回研究発表会, 12月, 東京, 要旨集, 86.
- 109) Hirano, M., Suzuki, K. and Iwata, H.: Functional characterization of the clathrin as a novel regulator of ecdysone receptor signaling pathway, 環境ホルモン学会 第17回研究発表会, 12月, 東京, 要旨集, 87.
- 110) 飯田 緑, 藤井 聡, 内田雅也, 中村 浩, 鏡 良弘, Bak Su-Min, 金 恩英, 岩田久人: パスウェイ解析による TCDD 曝露したマダイ胚のトランスクリプトームへの影響評価, 環境ホルモン学会 第17回研究発表会, 12月, 東京, 要旨集, 88.
- 111) 芳之内結加, 清水沙千子, 李 鎮善, 平野将司, 阿草哲郎, 鈴木賢一, 中田晴彦, 金 恩英, 岩田久人: バイカルアザラシ エストロゲン受容体 $\alpha \cdot \beta$ 転写活性化能の評価: *in vitro*・*in silico* 法によるリガンド作用機序の解明, 環境ホルモン学会 第17回研究発表会, 12月, 東京, 要旨集, 113.
- 112) 阿草哲郎, 高木 梢, Todd W. Miller, 久保田領志, 阿南弥寿美, 岩田久人, 田辺信介: ウミガメ類におけるヒ素化合物の蓄積特性, 第20回ヒ素シンポジウム, 12月, 銚子, 講演要旨集, 47-48.

生態系解析部門

- 1) 大林由美子, 横川太一, 鈴木聡: 生物活性阻害剤を用いて海水中のタンパク質分解酵素活性の起源を探る. 環境微生物系学会合同大会, 浜松市, 10月, 要旨97.
- 2) 野中里佐, 丸山史人, 矢野大和, 大西勇輝, 広瀬 侑, 鈴木 聡, 増田道明: 養殖場由来 *Vibrio* sp. が保有する伝達性多剤耐性プラスミドの受容菌染色体への取り込み機構. 環境微生物系学会合同大会, 浜松市, 10月, 要旨集98.
- 3) 大久保寅彦, 臼井 優, 鈴木 聡, 高田秀重, 田村 豊: バンコク周辺の水圏環境における薬剤耐性菌とその耐性遺伝子の解析. 環境微生物系学会合同大会, 浜松市, 10月, 要旨集98.
- 4) 臼井 優, 大久保寅彦, 福田 昭, 高田秀重, 鈴木 聡, 田村 豊: 水圏環境からの薬剤耐性遺伝子伝播におけるハエの役割. 環境微生物系学会合同大会, 浜松市, 10月, 要旨集99.
- 5) 松井一彰, 三木健, 横川太一: 微生物の多様性と生態系機能の関係性評価に向けて: データベースと実験生態系を用いた理論的アプローチ. 環境微生物系学会合同大会, 浜松市, 要旨集116.
- 6) 鈴木 聡: 養殖場環境における抗菌剤耐性遺伝子 (ARGs) の分布: 水圏で ARGs を保有する菌はなにものか? 抗感染薬開発フォーラム第9回セミナー, 東京都, 10月, 要旨無. (招待講演)
- 7) Satoru Suzuki: The aquaculture environment: the focus on sulfonamide and tetracycline resistance genes. 3rd International Conference on Responsible Use of Antibiotics in Animals, Amsterdam, 9月, 要旨集30-31. (招待講演)
- 8) Satoru Suzuki: Who is possessing ARGs in freshwater and coastal sea? 15th International Symposium on Microbial Ecology (ISME15), Seoul, 8月, 要旨集9. (企画, 招待講演)
- 9) 鈴木 聡: 水圏環境は薬剤耐性遺伝子のシンクかソースか? 第41回動物用抗菌剤研究会シンポジウム, 武蔵境市, 4月, 要旨集5. (招待講演)
- 10) 北村真一・野澤昭乃・仲山 慶・山田力志・澤田 均・広瀬裕一・縄田 暁: マボヤ被囊軟化症の被囊軟化機構に関する研究~病原鞭毛虫からのプロテアーゼ検出と軟化時に量的変化する被囊タンパク質の探索~. 平成26年度日本魚病学会秋季大会, 9月, 福岡, 要旨集12.
- 11) 伊藤沙耶美・植崎幸恵・仲山 慶・北村真一・大林由美子: スクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* における細胞外プロテアーゼの役割. 平成26年度日本魚病学会秋季大会, 9月, 福岡, 要旨集13.
- 12) 仲山 慶・池田宏文・今宿 團・佐藤健太郎・北村真一: 細菌性感染症に対するコイの免疫応答に及ぼす化学物質の影響, 第20回日本環境毒性学会研究発表会, 9月, 富山, 講演要旨集, 60.
- 13) 仲山 慶・佐藤健太郎・北村真一・磯部友彦・鈴木 剛: 下水処理水中の糖質コルチコイドの同定とリスク評価, 第17回日本水環境学会シンポジウム, 9月, 彦根, 講演集, 43.
- 14) Nakayama, K., Sato, K., Ikeda, H., Imajuku, D., Kitamura, S. I., Isobe, T. and Suzuki, G.: Risk evaluation of glucocorticoids discharged from sewage treatment plants in Japan: Effects on the response to bacterial infection in fish. SETAC North America 35th Annual Meeting, Vancouver, Canada, November, Abstract Book, 284.

- 15) Hamamura, N., Kataoka, T., Fukushima, K.: Diversity of microbial arsenic transformation pathways associated with arsenic cycling in the environment. Japan Geoscience Union Meeting 2014. Yokohama, 2014, April, Abstract B-GM22-03.
- 16) Kataoka, T., Hamamura, N.: Effect of antimony on arsenite oxidation by soil microbial community. Japan Geoscience Union Meeting 2014. Yokohama, 2014, April, Abstract B-GM22-P01.
- 17) Hamamura, N., Huang, H., Damdinsuren, N.: Diversity of microbial arsenic transformation pathways associated with an alkaline saline lake in northern Mongolia. 15th International Symposium on Microbial Ecology Annual Meeting. Korea, 2014, August, Abstract 124A.
- 18) Hamamura, N.: Diversity of microbial arsenic transformation pathways associated with an alkaline saline lake in northern Mongolia. 環境微生物系学会合同大会, 浜松市, 10月, 要旨集85.
- 19) 江原綾香・Sanchez, T.・Yeager, C.・濱村奈津子・鈴木治夫・天知誠吾: 異化的ヒ素呼吸菌 *Geobacter* sp. OR-1 株のプロテオーム解析. 環境微生物系学会合同大会, 浜松市, 10月, 要旨集86.
- 20) Hamamura, N.: Biotransformation of toxic metalloids associated with contaminated environments : cellular to community level function and response. Interdisciplinary symposium on environmental microbiology for sustainable society, Nagoya, February, 2015, Abstract p3.

5. 学会及び社会における活動

(平成26年度)

5.1 併任・委員会委員等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 科学研究費専門員会委員, 日本学術振興会
- 2) 研究成果最適展開支援プログラム専門委員, (独) 科学技術振興機構
- 3) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 4) 愛媛県環境影響評価審査会委員, 愛媛県
- 5) アドバイザー, 国際エメックスセンター

郭 新宇

- 1) 招聘主任研究員, 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境変動領域
- 2) 客員研究員, 国家海洋局第二海洋研究所 (中国)
- 3) 客員教授, 天津科技大学 (中国)

化学・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 客員研究員, 独立行政法人国立環境研究所
- 2) 科学技術・学術審議会専門委員 (学術分科会), 文部科学省
- 3) 科学技術動向研究センター専門調査員, 文部科学省
- 4) 科学研究費委員会専門委員, 独立行政法人日本学術振興会
- 5) IOC 協力推進委員会海洋環境・生物国内専門部会委員, 独立行政法人海洋研究開発機構
- 6) 中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員, 環境省
- 7) 中央環境審議会臨時委員, 環境省
- 8) 新規 POPs 等研究会委員, 環境省
- 9) POPs 条約有効性評価国内検討委員会委員, 環境省
- 10) 臭素系ダイオキシン類の排出源情報の収集・整理に関する調査業務の検討会委員, 環境省
- 11) 「海洋環境保全調査」に係る海洋環境モニタリング調査検討会検討員, 環境省
- 12) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員, 環境省
- 13) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員, 環境省
- 14) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員, 環境省
- 15) 微量 PCBs 混入廃電気機器等処理実証試験検討委員会委員, 環境省
- 16) PCB 廃棄物適正処理に関する検討委員会委員, 環境省
- 17) EXTEND2010野生生物の生物学的知見研究検討部会委員, 環境省
- 18) EXTEND2010今後のあり方に関する検討会委員, 環境省
- 19) 南極環境実態把握モニタリングマニュアル作成検討委員会委員, 環境省
- 20) 国立水俣病総合研究センター研究評価委員会委員, 環境省
- 21) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 22) 愛媛県環境審議会化学物質環境保全部会会長, 愛媛県
- 23) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 24) 愛媛県科学技術振興会議衛生環境評価専門部会委員, 愛媛県
- 25) 愛媛県廃棄物処理センター理事, 愛媛県

- 26) 西条市環境審議会委員長，愛媛県西条市
- 27) 日本しろあり対策協会四国支部支部長，公益社団法人日本しろあり対策協会
- 28) 日本しろあり対策協会防除技術委員会委員，公益社団法人日本しろあり対策協会

岩田 久人

- 1) 化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班検討員，環境省
- 2) 化審法審査支援等検討会検討委員，国立環境研究所

板井 啓明

- 1) 国立水俣病総合研究センター 共同利用研究員

高菅 卓三

- 1) 黄砂問題検討会 黄砂実態解明調査解析ワーキンググループ委員，環境省
- 2) 平成25年度 PCB 汚染物の PCB 含有量測定法検討ワーキンググループ委員，産業廃棄物諸事業振興財団
- 3) 極微量物質研究会技術顧問，(社)日本環境測定分析協会
- 4) 環境調査研修所 ダイオキシン類排ガスコース(中級)講師，環境省
- 5) 試験所技術審査員，(財)日本適合性認定協会
- 6) MLAP 技術アドバイザー，(独)製品評価技術基盤機構(NITE)認定センター
- 7) 環境組成標準物質開発委員会委員，日本分析化学会
- 8) 平成26年度社会ニーズ(安全・安心)・国際幹事等排出分野に係る国際標準化活動に関する国内審査委員会委員(揮発性環状メチルシロキサン分析法に関する国際標準化)ISO TC147関連，埼玉県環境科学国際センター
- 9) 厚生労働省「職場における化学物質のリスク評価推進事業(ばく露実態調査)」，「測定手法等検討分科会」委員，「ナノマテリアル測定手法等検討分科会」委員，中央労働災害防止協会
- 10) 平成26年度総合地球環境科学研究所共同研究員，「クラウド志向性環境リスク認識システムの開発と問題解決型環境観ネットワークの共創」，大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境科学研究所，環境省地球温暖化対策技術開発・実証研究事業「車両適合性のある第二世代バイオディーゼル燃料利活用に向けた技術実証研究」主任研究員(公財)京都高度技術研究所

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 書面審査専門評価委員，(公社)農林水産・食品産業技術振興協会

大森 浩二

- 1) 河川・溪流アドバイザー，肱川・野村ダム，国土交通省
- 2) 水源地生態研究会議委員，ダム水源地環境センター
- 3) 山鳥坂ダム環境検討委員会，国土交通省
- 4) 河川・溪流アドバイザー，重信川，国土交通省
- 5) 四国ダムフォローアップ委員会，国土交通省
- 6) 肱川清流保全委員会，国土交通省，大洲市ほか
- 7) 肱川水系流域委員会，国土交通省

北村 真一

- 1) Researcher: Food and Agriculture Organization of the united nations (FAO：国際連合食糧農業機関)
- 2) 高校生おもしろ科学コンテスト生物出題委員
- 3) 宮城県水産技術総合センターの研究指導機関
- 4) 愛媛県消費・安全対策交付金外部委員

5.2 学協会委員等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 顧問, 日本海洋学会沿岸海洋研究会

郭 新宇

- 1) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「Journal of Oceanography」

吉江 直樹

- 1) 委員, 北太平洋海洋科学機構 (PICES) 複合ストレスに対する生態系応答の評価指標開発に関する作業部会 (WG28)
- 2) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会 事業部会
- 3) 講師, 愛媛県宇和島市における海の環境教育に関する研究会

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 理事, 内分泌攪乱化学物質学会
- 2) 副会長・理事, 日本環境化学学会
- 3) 評議員, 環境放射能除染学会
- 4) 幹事・副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 5) 非常勤講師, 熊本県立大学
- 6) 教員特別研究推進費に係わる学外審査委員, 静岡県立大学
- 7) 環境問題助成選考委員会委員, 日本生命財団
- 8) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, Ecotoxicology and Environmental Safety, Elsevier
- 2) Editorial Board Member, Journal of Toxicology, Hindawi Publishing Corporation
- 3) Editorial Board Member, Journal of Marine Biology, Hindawi Publishing Corporation
- 4) Editorial Board Member, Korean Society of Environmental Risk Assessment and Health Science

野見山 桂

- 1) 幹事・日本水環境学会中国・四国支部

高菅 卓三

- 1) 副会長・理事, 講演会企画部会幹事, 編集委員会副委員長・幹事, 評議員 日本環境化学学会
- 2) 極微量物質研究会技術顧問, (社) 日本環境測定分析協会
- 3) 試験所技術審査員, (財) 日本適合性認定協会
- 4) ダイオキシン分析技術セミナー委員及び講師, 日本分析化学会
- 5) ダイオキシン技能試験委員会委員, 日本分析化学会

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) Associate Editor, Microbes and Environments, 日本微生物生態学会
- 2) Associate Editor, Frontiers in Microbiology, Nature Publishing Group

- 3) 評議員, 日本微生物生態学会

大森 浩二

- 1) 和文誌編集委員, 応用生態工学会
2) 編集委員, Conference Papers in Environmental Sciences

北村 真一

- 1) 編集委員, Journal of Fish Pathology, 韓国魚病学会

濱村奈津子

- 1) 評議員, 日本微生物生態学会
2) 男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会長, 日本微生物生態学会
3) Associate Editor, Microbes and Environments, 日本微生物生態学会
4) Board of Editor, Ecological Research, 日本生態学会

5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

5. 4 学会, 講演会などの開催 (個人)

環境動態解析部門

吉江 直樹

- 1) 豊後水道研究集会, 平成27年3月10日, 愛媛大学総合研究等 I2F センター長室
2) 第一回沿岸生態系の評価・予測に関するワークショップ, 平成27年3月3日, 愛媛大学サテライトオフィス東京

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 日本セトロロジー研究会第25回 (松山) 大会, 平成26年5月24日~25日, 愛媛大学南加記念ホール

岩田 久人

- 1) 愛媛大学—Kyung Hee University 環境毒性学合同研究セミナー開催 平成26年6月20日~22日, 愛媛大学, 松山
2) 愛媛大学—Kyung Hee University 環境毒性学合同研究セミナー開催 平成26年12月21日~23日, 愛媛大学, 松山

板井 啓明

- 1) 科研費課題「琵琶湖湖底の貧酸素化にともなう Mn・As 大量溶出モデルの構築」報告会, 2014年4月15日 13:30~16:30, 京大大学生態学研究センター, 第一セミナー室

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 国際微生物生態シンポジウム (ISME), ラウンドテーブルディスカッション「The impacts of human activity on dynamics of antibiotic resistance gene flow in the aquatic environment」, ソウル, 韓国, 平成26年8月25日

濱村奈津子

- 1) The 6th Korea-Japan-Taiwan International Symposium on Microbial Ecology, August 24, 2014, Seoul, Korea
2) 環境微生物系学会合同大会2014 男女共同参画ランチョンシンポジウム
「国際的な研究キャリアパスを築く~留学&ライフステージのハードル・メリット・デメリット」, 平成26年10

月24日, アクトシティ浜松

5. 5 学会賞等

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

Fellow of the Society of Environmental Toxicology and Chemistry Award (平成27年2月)

後藤 哲智

第23回環境化学討論会最優秀学生賞, 「瀬戸内海沿岸における塩素化・臭素化およびミックスハロゲン化ダイオキシン類の汚染実態とその起源」, (平成26年5月)

Le Huu Tuyen

第23回環境化学討論会優秀学生賞, 「Methylated Polycyclic Aromatic Hydrocarbons and Their Contribution to AhR-mediated Activities in Street Dust from Vietnam and India」, (平成26年5月)

西本 慶

第23回環境化学討論会 SETAC 賞, 「リン酸エステル系難燃剤によるインドネシアの母乳汚染」, (平成26年5月)

辻沢 雄将

第23回環境化学討論会優秀学生賞, 「ニホンザルにおける水酸化 PCBs の蓄積特性: 胎盤を介した胎児への移行」, (平成26年5月)

第17回環境ホルモン学会研究発表会優秀ポスター賞, 「ニホンザルにおける水酸化 PCBs の蓄積特性: 胎盤を介した胎児への移行」, (平成26年12月)

芳之内結加

第23回環境化学討論会優秀学生賞, 「DDTs・ビスフェノール類によるバイカルアザラシ・マウスエストロゲン受容体転写活性化能の評価」, (平成26年5月)

田村 沙弥

課題研究 C (卒業研究) 「ポリ塩化ビフェニル (PCBs) 曝露によるイヌ異物代謝酵素シトクロム P450への影響評価」 優秀発表賞

6. 国際的活動

(平成26年度)

6.1 国際研究プロジェクト

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成25年1月～平成26年12月, 東シナ海における貧酸素水塊に関する研究, 華東師範大学
- 2) 平成25年1月～平成26年12月, 日本南岸の黒潮による栄養塩輸送及び下流側への影響, 国家海洋局第二海洋研究所
- 3) 平成25年1月～平成26年12月, 東シナ海における等深線を横切る交換流量に関する研究, 中国海洋大学, 天津科技大学

加 三千宣

- 1) 平成26年10月～, 近過去古陸水学: 日本の淡水湖沼珪藻群集に影響を及ぼす要因に関する研究, タリン大学

吉江 直樹

- 1) H23年～, 複合ストレスに対する生態系応答の評価指標開発に関する研究, 北太平洋海洋科学機構

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成15年～, 微量元素によるガーナの環境汚染, ガーナ水圏研究所
- 2) 平成16年～, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等 POPs の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
- 3) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるポルトガルの海洋汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 4) 平成18年～, アジア地域の有機フッ素化合物汚染, 米国・ニューヨーク州立大学アルバニー校
- 5) 平成18年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, インド・アンナマライ大学, KLE's Nijalingappa College, Bangalor
- 6) 平成19年～, POPs および POPs 候補物質によるインドネシアの環境汚染に関する研究, Center Technology for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), インドネシア
- 7) 平成19年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, ベトナム・ハノイ大学
- 8) 平成20年～, 有害物質によるワニの内分泌攪乱, 米国・フロリダ大学および NAS
- 9) 平成23年～, 福島原発災害による放射性物質の海棲哺乳動物汚染, モナコ・国際原子力機関 (IAEA)

岩田 久人

- 1) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center
- 2) 平成19年～, ヒ素代謝酵素の遺伝的多型に関する研究, ベトナム・ハノイ大学
- 3) 平成21年～, 野生生物のアリアルハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究, 韓国・Kyung Hee 大学

6. 国際的活動

金 恩英

- 1) 平成15年～, 野生鳥類のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究, 米国・ウッズホール海洋研究所
- 2) 平成16年～, 野生生物の有機フッ素化合物汚染とその影響に関する研究, 米国・ニューヨーク州立大学
- 3) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 平成20年8月～, 養殖場の薬剤耐性菌研究, フィンランド・ヘルシンキ大学
- 2) 平成21年4月～, 複合汚染環境での薬剤耐性菌発生に関する研究, 台湾・国立成功大学
- 3) 平成24年4月～, 養殖場の薬剤耐性菌研究, 台湾・国立台湾海洋大学
- 4) 平成25年4月～, 排水・河川・海洋の薬剤耐性遺伝子定量, タイ・チュラロンコン大学

北村 真一

- 1) 平成18年9月～, 魚類感染症の発症メカニズムに関する研究, 韓国・国立全南大学校水産生命医学科

濱村奈津子

- 1) 平成21年4月～, イエローストーン温泉郡のメタゲノム解析, 米国・モンタナ州立大学およびポートランド州立大学
- 2) 平成22年10月～, モンゴル汚染環境サンプルの化学分析及び微生物生態解析, モンゴル国立大学

6. 2 在外研究等

化学汚染・毒性解析部門

板井 啓明

- 1) 平成26年6月～, 海洋大型生物アーカイブの水銀安定同位体比を指標とした外洋中メチル水銀の生成過程に関する研究, Centre National de Recherche Scientifique (CNRS), Geoscience Environment Toulouse (GET), France.

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成26年4月20日～26日, 国際学会 IOC/WESTPAC 9th International Scientific Symposium, ニャチャン, ベトナム
- 2) 平成26年4月27日～5月6日, 10th Cross-strait Ocean Sciences Conference (台北) 参加及び Workshop on Shallow Sea Dynamics 参加 (青島), 中国
- 3) 平成26年6月20日～30日, IMBER-OSC2014参加, バルゲン, ノルウェー
- 4) 平成26年7月18日～21日, 東シナ海における栄養塩輸送に関する研究打ち合せ, 青島, 北京, 中国
- 5) 平成26年8月10日～20日, 東シナ海及び黒潮流域における栄養塩輸送と流量変動に関する共同研究, 杭州, 青島, 中国
- 6) 平成26年10月25日～11月1日, PEACE Ocean Science Workshop 参加及び研究打ち合せ, 青島, 中国
- 7) 平成26年12月20日～平成27年1月6日, Qiongzhou 海峡における潮流・残差流に関する共同研究 (杭州), 瀬戸内海及び南シナ海における大気海洋作用に関する共同研究 (杭州), Jiaozhou 湾の生態系モデリングに関する共同研究 (青島), 中国
- 8) 平成27年3月11日～20日, 東シナ海及び日本南岸の黒潮による栄養塩輸送に関する共同研究, 青島, 中国

吉江 直樹

- 1) 平成26年4月15日～18日, 2014 PICES FUTURE Open Science Meeting, 発表, ハワイ, アメリカ
- 2) 平成26年10月17日～24日, PICES2014 annual meeting, 参加・発表, ヨス, 韓国
- 3) 平成26年11月17日～24日, 2nd International Ocean Research Conference, 参加・発表, バルセロナ, スペイン

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成26年9月13日～平成26年9月21日, インド・チェンナイおよびバンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India.
- 2) 平成26年11月23日～平成26年11月27日, International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014で基調講演, Bangkok, Thailand.

岩田 久人

- 1) 平成26年6月27日～29日, Kyung Hee 大学 研究打合わせ, 参加・発表, ソウル, 韓国
- 2) 平成26年8月31日～9月5日, The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2014) 参加・発表, マドリード, スペイン
- 3) 平成27年3月22日～26日, Society of Toxicology 54th Annual Meeting 参加・発表, サンディエゴ, 米国

国末 達也

- 1) 平成26年9月13日～平成26年9月23日, インド・チェンナイおよびバンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India.
- 2) 平成26年9月20日, WORKSHOP, THE ELECTROCHEMICAL SOCIETY OF INDIAでの招待講演, Bangalore, India.
- 3) 平成26年11月9日～平成26年11月15日, SETAC North America 2014 Annual Meetingで発表, Vancouver, BC, Canada.

Annamalai Subramanian

- 1) 平成26年9月13日～平成26年9月23日, インド・チェンナイおよびバンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India.

仲山 慶

- 1) 平成26年11月9日～平成26年11月13日, SETAC North America 35th Annual Meeting 参加・発表, Vancouver, Canada.

野見山 桂

- 1) 平成26年11月9日～平成26年11月16日, SETAC North America 2014 Annual Meeting で発表, Vancouver, BC, Canada.
- 2) 平成26年11月22日～平成26年11月27日, International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014, で発表, Bangkok, Thailand

阿草 哲郎

- 1) 平成27年2月7日～2月13日, フィリピン電子機器廃棄物リサイクル場環境影響評価のための現地調査, フィリピン
- 2) 平成27年3月22日～28日, Society of Toxicology (SOT) 参加・発表, サンディエゴ, 米国

平野 将司

- 1) 平成27年3月22日～26日, Society of Toxicology (SOT), 54th Annual Meeting 2014, 参加・発表, サンディエゴ, 米国

落合 真理

- 1) 平成26年5月11日～15日, SETAC Europe 24th Annual Meeting 2014, 参加・発表, Basel, Switzerland

6. 国際的活動

- 2) 平成26年11月19日～20日, 6th Bilateral Seminar Japan-Italy 2014, 参加・招待講演, Palermo, Italy

Le Huu Tuyen

- 1) 平成26年6月11日～平成26年6月17日, Urban Environmental Pollution 2014で発表, Toronto, Canada

Riyadi Adi Slamet

- 1) 平成27年1月6日～平成27年1月11日, 経済発展が著しいインドネシアの都市域ジャカルタおよび工場地域バンドンにおける環境汚染実態調査, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.

田上 瑠美

- 1) 平成26年5月9日～平成26年5月17日, SETAC Europe 24th Annual Meeting 2014, 参加・発表, Basel, Switzerland
- 2) 平成26年11月9日～平成26年11月16日, SETAC North America 2014 Annual Meeting で発表, Vancouver, BC, Canada.
- 3) 平成27年1月6日～平成27年1月11日, 経済発展が著しいインドネシアの都市域ジャカルタおよび工場地域バンドンにおける環境汚染実態調査, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia.

辻沢 雄将

- 1) 平成26年9月13日～平成26年9月23日, インド・チェンナイおよびバンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India

山本 恭央

- 1) 平成26年9月13日～平成26年9月23日, インド・チェンナイおよびバンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India

元木 一貴

- 1) 平成26年9月13日～平成26年9月23日, インド・チェンナイおよびバンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India

芳之内結加

- 1) 平成26年8月31日～9月5日, The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2014) 参加・発表, マドリード, スペイン

田村 沙弥

- 1) 平成26年8月31日～9月5日, The 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2014) 参加・発表, マドリード, スペイン

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 平成26年6月, 沿岸海水中の薬剤耐性遺伝子調査, ヘルシンキ沿岸, フィンランド
- 2) 平成26年8月, 15th International Symposium on Microbial Ecology (ISME15), 参加・発表, Seoul, Korea
- 3) 平成26年9月, 水圏環境中薬剤耐性遺伝子調査, バンコク周辺, タイ国
- 4) 平成26年9月, 3rd International Conference on Responsible Use of Antibiotics in Animals, 招待講演, Amsterdam, The Netherlands.

北村 真一

- 1) 平成26年6月, マボヤサンプリング, 統営, 大韓民国

- 2) 平成27年3月, マボヤサンプリング, 統営, 大韓民国

横川 太一

- 1) 平成26年6月, 微生物食物網構造に関する共同研究, Biology Centre AS CR, v.v.i. Hydrobiological Institute, チェコ
- 2) 平成26年9月, 水圏環境中薬剤耐性遺伝子調査, バンコク周辺, タイ国

濱村奈津子

- 1) 平成26年7月, 耐アルカリ性重金属代謝菌およびアルカリ環境のメタゲノムに関する共同研究の実施, Oregon, U.S.A.
- 2) 平成26年8月, 15th International Symposium on Microbial Ecology (ISME15), 参加・発表, Seoul, Korea.
- 3) 平成26年8月, The 6th Korea-Japan-Taiwan International Symposium on Microbial Ecologyに参加・発表, Seoul, Korea.

6. 4 外国人客員研究員等

環境動態解析部門

- 1) Ms. Jing Zhang, 中国海洋大学, 平成26年7月4日～平成26年8月2日
- 2) Dr. Rui Shi, 中国科学院南海海洋研究所, 平成26年9月1日～平成26年11月26日
- 3) Liisa Puusepp, Tallinn University, Estonia, 日本学術振興会外国人特別研究員, 平成25年11月22日～平成26年9月26日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Dr. Ana Catarina Almeida Sousa, Aveiro University, Portugal, 共同研究の実施, 平成26年5月18日～平成26年8月5日
- 2) Ms. Sonia Dias Coelho, Aveiro University, Portugal, 共同研究の実施, 平成26年10月2日～平成26年12月19日

生態系解析部門

大森 浩二

- 1) Ngyen Tai Tue, JSPS 海外特別研究員, ベトナム共和国のマングローブ生態系における有機物動態解析, ベトナム: 平成24年10月～平成26年9月

6. 5 海外からの訪問者

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Dr. Alvaro Puga, Department of Environmental Health, University of Cincinnati Medical Center, 平成27年3月9日, 特別セミナーでの講演および研究打ち合わせ
- 2) Bak, Su-Min, Hwang, Ji-Hee, Park, Hae-Jeong, Han, Gil-Hwan / Kyung Hee University 環境毒性学合同研究セミナー発表および研究打ち合わせ 平成26年6月20日～22日
- 3) Bak, Su-Min, Hwang, Ji-Hee, Park, Hae-Jeong / Kyung Hee University 環境毒性学合同研究セミナー発表および研究打ち合わせ 平成26年12月21日～23日

6. 6 招聘研究員

6. 7 留学生

環境動態解析部門

- 1) Soeyanto Endro, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学経費, JCOPE2の再解析データからみた黒潮流量の経年変動に関する研究, インドネシア
- 2) 于晓杰, 大学院理工学研究科博士後期課程, 中国政府派遣留学生, 瀬戸内海における底部冷水・潮汐フロントに関する研究, 中国
- 3) 胡インイン, 大学院理工学研究科博士後期課程, 中国政府派遣留学生, 黒潮流域における栄養塩濃度の空間変化と時間変動に関する研究, 中国

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Nguyen Minh Tue, 日本学術振興会外国人特別研究員, Dynamics and Risk Assessment of Endocrine Disrupter Emission from Plastic Waste Recycling in Vietnam (ベトナムの樹脂廃棄物リサイクルにより発生する内分泌攪乱物質の動態とリスク評価), ベトナム (平成27年3月まで)
- 2) Le Huu Tuyen, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学支援経費, Monitoring and Bioassay Studies on the Environmental Contamination by PAHs in Vietnam (ベトナムにおける PAHs の汚染実態解明とバイオアッセイによるリスク評価), ベトナム (平成26年9月まで)
- 3) Adi Slamet Riyadi, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学支援経費, Spatial and Temporal Variations of Trace Element Contamination in Jakarta Bay (ジャカルタ湾における微量元素汚染の時空間変動解析), インドネシア
- 4) Yoo Jean, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士後期課程, アザラシのシトクロム P450による化学物質代謝能の解析, 韓国
- 5) Maria Claret Lauan, 大学院理工学研究科博士後期課程環境機能科学専攻, 環境汚染物質によるフィリピン野生生物プロテオームへの影響解析, フィリピン
- 6) Nguyen Thanh Hoa, 大学院理工学研究科博士前期課程アジア環境学特別コース, ダイオキシンに対するマウス感受性の系統差を規定する分子機構, ベトナム

生態系解析部門

- 1) Ngo Vy Thao, 理工学研究科博士後期課程アジア環境学特別コース, 大学経費, 海水中での細菌タンパク質の分解過程, ベトナム
- 2) Bien Thi Lan Thanh, 連合農学研究科, 日本国費, 薬剤耐性遺伝子の環境群集中伝達と残存, ベトナム
- 3) Luu Viet Dung, 大学院理工学研究科博士前期課程アジア環境学特別コース, 大学経費, ベトナム共和国メコン川河口におけるマングローブ生態系の有機物動態と食物連鎖網, ベトナム

7. 教育活動

(平成26年度)

7.1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目

環境動態解析部門

卒業論文

- 1) 河原 一喜：宇和海沿岸域における海水交換と赤潮に関する研究
- 2) 佐藤 業大：黒潮フロント渦に伴う東シナ海黒潮域の低次生態系変動
- 3) 手嶋 唯：豊後水道の急潮が地域の気象に及ぼす影響に関する研究
- 4) 山田桃太郎：温暖化に伴う豊後水道の藻場変化に関する研究
- 5) 久保田泰士：スルメイカふ化幼生の日本海および南岸へ輸送
- 6) 久保田祥隆：瀬戸内海における面熱フラックスの経年変動とその要因
- 7) 松永 奈々：瀬戸内海の水温分布による海陸風変化
- 8) 清都 真子：北海道苫小牧沖における過去3000年間の低次生産変動
- 9) 新 典樹：琵琶湖湖底堆積物からのマンガンの溶出量と溶存酸素消費への影響評価
- 10) 山内 俊哉：堆積物から見た九州山岳湖沼における動物プランクトン群集の長期変動

修士論文

- 1) 眞野 能：ミズクラゲの集群形成および現存量に関する研究
- 2) 本井 雅人：瀬戸内海における海洋循環モデルの精度検証と誤差要因の解析
- 3) 中川 美和：沿岸域の水温フロントが大気境界層に与える影響に関する研究

博士論文

- 1) Soeyanto Endro：Variations of Kuroshio transport in the East China Sea: Its relation to the Pacific Decadal Oscillation, mesoscale eddies and its influences on the throughflow in the straits of East Asian Marginal Seas

課題研究 A

- 1) 平田 景都：湖底堆積物中の珪藻群集組成に見られる日本の山岳湖沼の富栄養化トレンド

化学汚染・毒性解析部門

卒業論文

- 1) 戸田 温子：生活関連物質による無脊椎動物の汚染と生態リスク～近年の動向と今後の課題～
- 2) 草木 桃子：ポリ塩化ビフェニル（PCBs）を曝露したイヌ臓器組織中の異物代謝酵素シトクロム P450活性
- 3) 西川 博之：PCBs およびその水酸化代謝物によるアメリカアリゲーターの汚染実態
- 4) 西村 亮：臭素系難燃剤による室内ダストの汚染とヒト曝露評価
- 5) 藤井 定彦：生活関連物質（PPCPs）によるインドの魚類汚染とそのリスク評価
- 6) 松下 尚史：塩素化・臭素化ダイオキシン類によるガーナ E-waste 処理場の土壤汚染
- 7) 元木 一貴：瀬戸内海のスナメリに残留する有機ハロゲン化合物の網羅分析
- 8) 久米伊万里：遊離型甲状腺ホルモンの高精度機器分析法
- 9) 大野 祐樹：医薬品・生活関連物質による甲殻類脱皮ホルモン受容体を介した影響の評価
- 10) 尾崎かおり：ビスフェノール類によるイヌ・ヒト エストロゲン受容体転写活性化能の評価
- 11) 田村 沙弥：ポリ塩化ビフェニル（PCBs）曝露によるイヌ異物代謝酵素シトクロム p450への影響評価

修士論文

- 1) 西岡宗一郎：東日本大震災による残留性有機汚染物質の魚類生態系汚染：経年変化と流出量解析
- 2) 大久保里紗：スナメリにおける有機ハロゲン化合物の蓄積特性
- 3) 辻沢 雄将：ニホンザルにおける水酸化 PCBs の蓄積特性：胎盤を介した胎仔への移行
- 4) Nguyen Thanh Hoa：Strain-differences in the proteome of dioxin-sensitive and -resistant mice treated with 2,3,7,8-tetrabromodibenzo-*p*-dioxin
- 5) 池田 宏文：ジクロロボス暴露が *Edwardsiella tarda* に感染したコイの免疫応答に与える影響
- 6) 今宿 團：寄生虫感染に対するヒラメの免疫応答と体表粘液中細菌叢の組成変化の関係
- 7) 佐藤健太郎：医薬品由来の合成糖質コルチコイドの環境リスク評価
- 8) 清水 市代：陰イオン界面活性剤の急性暴露による毒性機序の解明と生態リスク評価

博士論文

- 1) Le Huu Tuyen：Polycyclic Aromatic Hydrocarbons and Related Compounds in Urban and E-waste Recycling Sites of Vietnam and India: Occurrence, Distribution and Toxic Evaluation (ベトナム・インドの都市および E-waste リサイクル地域における多環芳香族化合物とその関連物質：汚染の実態、分布および毒性評価に関する研究)
- 2) Rumi Tanoue (田上 瑠美)：Contamination of Pharmaceutical and Personal Care Products in Fish: Uptake, Tissue Distribution, and Risk Assessment (生活関連化学物質による魚類汚染：体内移行残留性と組織分布の解明およびそのリスク評価)
- 3) Yoo Jean：Assessment of the metabolic potential of polychlorinated biphenyls in the Canifornia, the Baikal seal and the beagle dog

生態系解析部門

卒業論文

- 1) 伊藤沙耶美：Role of extracellular proteinases as potential virulence factors in *Miamiensis avidus*
- 2) 大西由歌里：ヒラメ末梢血中の白血球の形態学的特徴および寄生虫感染時の数的変化
- 3) 山崎 聡志：大分県の養殖場におけるリンホシスチス病耐性ヒラメの混入調査
- 4) 杉本 侑大：新規マクロライド耐性遺伝子 *mef* (C) および *mph* (G) の水圏環境における分布と多様性
- 5) 田中 大貴：海産魚類腸内からのセルロース分解菌の単離
- 6) 小田 卓弥：水圏環境におけるサルファ剤耐性遺伝子群の均質性と保有菌の多様性
- 7) 砂川 勇次：北条沖砂堆におけるプランクトン群集解析

修士論文

- 1) 大西 勇輝：沿岸養殖場環境における新規な遺伝子水平伝達因子の分布と多様性

7. 2 講義・集中講義

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 平成26年度前期, 環境科学セミナー I, スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成26年度前期, コース英語 I, スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成26年度前期, 新入生セミナー, スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成26年度前期, 海洋学通論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 5) 平成26年度前期, 地球科学, 工学部
- 6) 平成26年度後期, 環境科学セミナー IV, スーパーサイエンス特別コース
- 7) 平成26年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 8) 平成26年度後期, 社会デザイン演習 II, III, 工学部
- 9) 平成26年度前期, 沿岸海洋学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成26年度前後期, 環境建設工学ゼミナール, 大学院理工学研究科博士前期課程

- 11) 平成26年度前後期, 環境建設工学特別実験, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成26年度後期, 海洋環境工学特論Ⅲ, 大学院理工学研究科博士後期課程

郭 新宇

- 1) 平成26年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 2) 平成26年度前期, 海洋物理学Ⅰ, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成26年度後期, 海洋物理学Ⅱ, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成26年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 5) 平成26年度後期, 地球科学特別演習Ⅰ, 理学部
- 6) 平成26年度後期, 地球科学特別演習Ⅱ, 理学部
- 7) 平成26年度後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 8) 平成26年度前期, 大気海洋科学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成26年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成26年度前期, 地球科学高等実験Ⅴ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成26年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成26年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅴ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成26年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成26年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成26年度前期, 大気海洋力学, 大学院理工学研究科博士後期課程
- 16) 平成26年度前後期, 地球進化学特論Ⅷ, 大学院理工学研究科博士後期課程

加 三千宣

- 1) 平成26年度前期, 海洋学通論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 2) 平成26年度前期, 地球環境学序論, 理学部
- 3) 平成26年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 4) 平成26年度後期, 地球科学実験Ⅰ, 理学部
- 5) 平成26年度前期, 新入生セミナー A, スーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成26年度後期, 最新地球惑星科学, 理学部
- 7) 平成26年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 8) 平成26年度後期, 地球科学実験Ⅱ, 理学部
- 9) 平成26年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 10) 平成26年度後期, 地球科学特別演習Ⅰ, 理学部
- 11) 平成26年度後期, 地球科学特別演習Ⅱ, 理学部
- 12) 平成26年度後期, 科学リテラシー入門-環境を考える, 共通教育
- 13) 平成26年度後期, 自然のしくみ-瀬戸内海学実習, 共通教育
- 14) 地球科学野外研究

吉江 直樹

- 1) 平成26年度前期, 微分方程式, 工学部
- 2) 平成26年度前期, 水理学Ⅰおよび同演習, 工学部
- 3) 平成26年度後期, 地球環境学 工学部
- 4) 平成26年度前後期, 環境建設デザイン演習Ⅲ, 工学部
- 5) 平成26年度前後期, 社会デザイン演習Ⅰ, 工学部
- 6) 平成26年度前後期, 社会デザイン演習Ⅱ, 工学部
- 7) 平成26年度前後期, 社会デザイン演習Ⅲ, 工学部
- 8) 平成26年度後期, 自然のしくみ「海洋練習船で行う瀬戸内海実習」, 共通教育
- 9) 平成26年度前後期, 卒業研究, 工学部

集中講義

郭 新宇

- 1) 平成26年度後期, 実践型環境特別演習 B, 長崎大学大学院工学研究科

化学汚染・毒性解析部門

講 義

田辺 信介

- 1) 平成26年度後期, 海洋環境学, 農学部
- 2) 平成26年度前後期, 卒業論文, 農学部
- 3) 平成26年度前期, 化学序論, 理学部
- 4) 平成26年度前期, 卒業研究 I, 理学部
- 5) 平成26年度後期, 卒業研究 II, 理学部
- 6) 平成26年度後期, 環境化学, 理学部
- 7) 平成26年度前期, 環境科学セミナー I, スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成26年度前期, 環境科学セミナー III, スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成26年度前期, コース英語 I, スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成26年度前期, 新入生セミナー B, スーパーサイエンス特別コース
- 11) 平成26年度前期, 有害物質動態論, 大学院農学研究科, 大学院理工学研究科
- 12) 平成26年度前期, 生態環境科学特論 II, 大学院理工学研究科博士後期課程
- 13) 平成26年度前後期, 環境機能科学特別研究, 大学院理工学研究科博士後期課程
- 14) 平成26年度前後期, 環境機能科学特別演習, 大学院理工学研究科博士後期課程

岩田 久人

- 1) 平成26年度前期, 新入生セミナー B, スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成26年度前期, SSC 共通セミナー, スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成26年度前期, 環境毒性学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース・農学部
- 4) 平成26年度前期, 基礎生物化学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 5) 平成26年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成26年度後期, 環境科学コースセミナー IV, スーパーサイエンス特別コース
- 7) 平成26年度後期, 環境科学コース英語 II, スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成26年度後期, 課題研究 A, スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成26年度後期, 生物学展望, 理学部
- 10) 平成26年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 11) 平成26年度前・後期, 環境保全セミナー, 農学部
- 12) 平成26年度前・後期, 生物学特別演習, 理学部
- 13) 平成26年度前・後期, 生態化学実験, 農学部
- 14) 平成26年度前・後期, 卒業研究, 理学部
- 15) 平成26年度後期, 環境分子毒性学, 大学院理工学研究科
- 16) 平成26年度前期, 新入生セミナー A, 理学部

国末 達也

- 1) 平成26年度前期, 化学英語 I, 理学部
- 2) 平成26年度前期, 卒業研究 I, 理学部
- 3) 平成26年度後期, 卒業研究 II, 理学部
- 4) 平成26年度後期, 環境化学, 理学部
- 5) 平成26年度前期, 新入生セミナー B, スーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成26年度後期, 環境化学 A, スーパーサイエンス特別コース
- 7) 平成26年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンス特別コース

- 8) 平成26年度前期, 化学ゼミナール I, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成26年度前期, 分子科学課題演習 I, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成26年度後期, 環境化学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成26年度前期, 化学ゼミナール II, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成26年度前期, 分子科学課題演習 II, 大学院理工学研究科博士前期課程

仲山 慶

- 1) 平成26年度前期, 基礎生物学演習, 理学部
- 2) 平成26年度前期, 海洋生物学実習, 理学部
- 3) 平成26年度前期, 生物学ゼミナール I, 理学部
- 4) 平成26年度前期, 新入生セミナー A
- 5) 平成26年度後期, 生物学ゼミナール II, 理学部
- 6) 平成26年度後期, 生物学展望, 理学部
- 7) 平成26年度後期, 生物学課題研究, 理学部

野見山 桂

- 1) 平成26年度前期, 基礎化学実験, 理学部化学科
- 2) 平成26年度前期, 卒業研究 I, 理学部
- 3) 平成26年度後期, 卒業研究 II, 理学部
- 4) 平成26年度後期, 化学実験 I, 理学部
- 5) 平成26年度前・後期, 化学実験 II, III, 理学部
- 6) 平成26年度後期, 新入生セミナー B
- 7) 平成26年度集中, 化学ゼミナール I
- 8) 平成26年度集中, 化学ゼミナール II
- 9) 平成26年度集中, 化学ゼミナール III
- 10) 平成26年度集中, 化学ゼミナール IV
- 11) 平成26年度集中, 分子科学課題演習 I
- 12) 平成26年度集中, 分子科学課題演習 II

集中講義

田辺 信介

- 1) 平成26年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

生態系解析部門

講義

鈴木 聡

- 1) 平成26年度前期, 新入生セミナー, スーパーサイエンスコース
- 2) 平成26年度前期, 環境生化学, 農学部
- 3) 平成26年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンスコース
- 4) 平成26年度後期, コース英語, スーパーサイエンスコース
- 5) 平成26年度前期, 環境科学セミナー III, スーパーサイエンスコース
- 6) 平成26年度後期, 環境科学セミナー II, スーパーサイエンスコース
- 7) 平成26年度前期, 生物環境保全学実験 III, 農学部
- 8) 平成26年度通年, 分子生態学実習, 農学部
- 9) 平成26年度後期, 環境分子生物学, 大学院農学研究科
- 10) 平成26年度前後期, 生物環境保全学研究, 大学院農学研究科
- 11) 平成26年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 大学院農学研究科
- 12) 平成26年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 大学院農学研究科
- 13) 平成26年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 大学院農学研究科

7. 教育活動

- 14) 平成26年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅱ, 大学院農学研究科
- 15) 平成26年度後期, 生物学, 共通教育
- 16) 平成26年度前期, 教職生物学実験, 農学部
- 17) 平成26年度後期, 微生物学, 聖カタリナ女子高等学校看護専攻科

大森 浩二

- 1) 平成26年度前期, 博物館実習 (事前指導)
- 2) 平成26年度前期, 基礎英語, 愛媛大学理学部
- 3) 平成26年度後期, 博物館実習 (事後指導)
- 4) 平成26年度後期, 環境生物学, 愛媛大学理学部
- 5) 平成26年度前期, 基礎生物英語, 愛媛大学理学部
- 6) 平成26年度前期, 生物学ゼミナール, 愛媛大学理学部
- 7) 平成26年度前後期, 卒業研究, 愛媛大学理学部
- 8) 平成26年度前後期, 生物学演習, 愛媛大学理学部
- 9) 平成26年度前後期, 生物学課題研究, 愛媛大学理学部
- 10) 平成26年度前期, 環境科学セミナーⅠ,Ⅲ, SSC
- 11) 平成26年度後期, 環境科学セミナーⅡ,Ⅳ, SSC
- 12) 平成26年度前後期, SSC 課題実験, SSC
- 13) 平成26年度前後期, 新入生セミナー A, B, SSC
- 14) 平成26年度前後期, 水域生態学, 愛媛大学大学院理工学研究科
- 15) 平成26年度前後期, 生物学ゼミナール, 愛媛大学大学院理工学研究科
- 16) 平成26年度前後期, 生態学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科

北村 真一

- 1) 平成26年度前期, 海洋生物学, 理学部
- 2) 平成26年度前期, 海洋生物学実習, 理学部
- 3) 平成26年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 4) 平成26年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 理学部
- 5) 平成26年度後期, 生物学ゼミナールⅡ, 理学部
- 6) 平成26年度後期, 生物学展望, 理学部
- 7) 平成26年度後期, 水圏微生物学, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成26年度後期, 微生物学, 理学部

横川 太一

- 1) 平成26年度前期: 環境基礎数学, 農学部
- 2) 平成26年度前期: 環境保全学入門, 農学部
- 3) 平成26年度後期: 生物環境保全学実験Ⅲ, 農学部
- 4) 平成26年度後期: 生物学, 共通教育

8. 設 備



(平成26年度導入)

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 蛍光検出器 (日本分光 FP-2020) : PAH の誘導体を検出する機器



9. 広 報



(平成26年度)

9.1 CMES ニュース

CMES ニュース No.30

目 次

新任教員紹介	化学汚染・毒性解析部門 教授 国末 達也
科学研究費新規採択課題紹介	
基盤研究 (B)「黒潮本流域と黒潮内域における栄養塩の水平及び鉛直輸送量の解明」	環境動態解析部門 准教授 郭 新宇
若手研究 (B)「化学物質の慢性暴露が病原体感染時のコイの免疫応答に与える影響」	化学汚染・毒性解析部門 講師 仲山 慶
挑戦的萌芽研究「東日本大震災による環境汚染がもたらした海洋生物の汚染物質耐性メカニズムの解明」	化学汚染・毒性解析部門 特任助教 阿草 哲郎
科研費課題中間報告	
基盤研究 (B)「マボヤ被囊軟化症の被囊軟化メカニズムの解明」	生態系解析部門 准教授 北村 真一
学会参加報告	
「Ocean Sciences Meeting 2014」	環境動態解析部門 研究員 堤 英輔
編集後記	

CMES ニュース No.31

目 次

教員紹介	環境動態解析部門 教授 郭 新宇
科学研究費新規採択課題紹介	
基盤研究 (S)「多元的オミックス解析による化学物質—細胞内受容体シグナル伝達攪乱の種差の解明」	化学汚染・毒性解析部門 教授 岩田 久人
挑戦的萌芽研究「多様な動物種に適応できる内因性ホルモンの高精度分析法の開発」	化学汚染・毒性解析部門 教授 国末 達也
研究員紹介	
「クジラの脳の汚染に迫る」	日本学術振興会特別研究員 落合 真理
学会参加報告	
「SETAC North America 35 th Annual Meeting」	化学汚染・毒性解析部門 講師 野見山 桂
受賞報告	
「第20回日本環境毒性学会研究発表会奨励賞」	化学汚染・毒性解析部門 大学院農学研究科 佐藤健太郎
「環境ホルモン学会（日本内分泌攪乱化学物質学会）第17回研究発表会優秀ポスター賞」	化学汚染・毒性解析部門 大学院農学研究科 辻沢 雄将
編集後記	

9. 2 報道関係

環境動態解析部門

吉江 直樹

- 1) 平成27年1月25日, ダーウィンが来た! 396回 大追跡! “タチウオ千本刀”, NHK

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成26年5月16日, クジラやイルカ 共存方法を模索, 松山 24, 25日 鯨類学研究会, 毎日新聞
- 2) 平成26年5月25日, 海洋汚染鯨類に影響, 松山で講演「人間への警鐘」, 愛媛新聞

野見山 桂

- 1) 平成26年5月14日, ニホンザル胎児から PCB, 霊長類では初検出, 発達障害の研究に愛媛大のグループ, 毎日新聞

板井 啓明

- 1) 平成26年5月14日, 琵琶湖底たまる有害物質, ヒ素・マンガン地中の数百倍も, 愛媛大調査 酸素不足が原因, 朝日新聞 (夕刊)

落合 真理

- 1) 朝日新聞「漂着クジラ, 解体後全国へ～手弁当で参集の研究者ら, 5時間かけ作業～」, 2014年8月27日

9. 3 講座, 講演会等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 環境教育学, 生態系Ⅱ一海 (命を育む潮の流れ), 愛媛大学附属高校, 11月8日

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 田辺信介: 化学物質と環境, 愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール高大連携授業, 愛媛大学, 2月.
- 2) 田辺信介: 化学物質と環境, 平成25年度愛媛大学附属高等学校における高大連携授業「環境教育学」, 愛媛大学附属高等学校, 2月.
- 3) 田辺信介: 科研費獲得法について一科研費を獲得して大学の未来を開拓, 科研費の獲得と執行に関する説明会, 愛媛大学, 7月.
- 4) 田辺信介: 研究者の一分, 第一線の研究者に学ぶ研究力向上セミナー, 愛媛大学, 9月.

国末 達也

- 1) LC-MS/MS を用いた甲状腺ホルモン測定と環境毒性学への応用, 日本化学会中国四国支部 愛媛地区化学講演会 (愛媛大学, 2014年12月)

高菅 卓三

- 1) 高菅卓三: 低濃度 PCB 含有廃棄物に関する測定方法—第2版—について』2014 (平成26) 年度 第2回極微量物質研究会 (UTA 研) セミナー, 東京, 2月.
- 2) 高菅卓三: 「今さら聞けないダイオキシン分析の基礎知識」, ダイオキシン分析基礎講座 (第2弾), ダイオキシン分析のポイント: 「経験で得たノウハウと知見」2014 (平成26) 年度第1回極微量物質研究会 (UTA 研) セミナー, 東京, 7月.

9. 広 報

- 3) 高菅卓三：塗膜くず等の PCB 分析法，PCB 対策の進展と低濃度 PCB 汚染物の分析法，特定非営利活動法人環境測定品質管理センター講演会，東京，10月.
- 4) 高菅卓三：塗替え時における廃 棄塗膜中の PCB 等有害物質について，第2回技術講習会，九州鋼構造物塗装協同組合，熊本市，11月.

野見山 桂

- 1) 野見山桂：化学物質による野生生物汚染と環境ホルモン問題について，三重中学校ミニ講義，愛媛大学，5月.
- 2) 野見山桂：化学物質によるペットの汚染問題，聖カタリナ大学講義，聖カタリナ大学，12月.

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 第41回動物用抗菌剤研究会，招待講演，水圏環境・養殖環境における薬剤耐性遺伝子とその水平伝達，平成26年4月26日，日本獣医生命科学大学
- 2) 第15回国際微生物生態シンポジウム，ラウンドテーブルディスカッション，企画・招待発表，平成26年8月25日，ソウル国際会議場
- 3) 第3回動物における薬剤使用国際会議，招待講演，平成26年9月29日，アムステルダム熱帯植物園
- 4) 抗菌薬開発研究会セミナー，招待講演，平成26年10月25日，慶応大学薬学部

10. 調査船「いさな」運行状況



(平成26年度)

船長：大西秀次郎

日付	運行海域	目的
H26.4.15	松山沖	実習
H26.5.9	伊予灘, 別府湾	地球科学科野外研究
H26.5.15	北条沖	海洋観測
H26.5.19	松山沖	海洋観測
H26.5.28	松山沖	海洋観測
H26.6.20	北条沖	海洋観測
H26.6.25	伊予灘	海洋観測
H26.7.20	伊予市沖	海洋観測
H26.7.21	伊予灘	調査(吉江)
H26.7.22~24	伊予灘・豊後水道	現地サンプリング
H26.8.2~3	伊予灘	スーパーサイエンスコース夏季合宿研修
H26.8.7	伊予灘	テスト運行
H26.8.25~28	法華湾	海洋観測
H26.9.11	伊予灘	海洋観測
H26.9.17	中島周辺	調査
H26.9.29	伊予灘	海洋観測
H26.9.30	豊後水道	海洋観測
H26.10.8	松山沖	海洋観測
H26.10.10	松山沖	調査
H26.10.17	松山沖	海洋観測
H26.10.24	伊予灘	海洋観測
H26.11.28	松山沖	実習
H.26.12.2	松山沖	農学部実習

11. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき任命された学内の協力研究者）

(平成26年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
畑田 佳男	理工学研究科生産環境工学専攻	講師	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析部門
三宅 洋	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	流域の自然環境および人間活動が河川生物群集に及ぼす影響の解明群集	環境動態解析部門
井内 國光	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析部門
森脇 亮	理工学研究科生産環境工学専攻	教授	大気環境に関する研究瀬戸内海の	環境動態解析部門
堀 利栄	理工学研究科数理物質科学専攻	准教授	底質環境に関する総合研究	環境動態解析部門
三浦 猛	南予水産研究センター	教授	環境汚染物質が魚類の生殖に与える影響の機構解明	化学汚染・毒性解析部門
菅原 卓也	農学部生物資源学科	教授	環境化学物質の生体リスク評価、特に免疫系に及ぼす化学物質の影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
柿沼 喜己	農学部生物資源学科	教授	イオンホメオスタシスへの化学物質の影響	化学汚染・毒性解析部門
村上 安則	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	環境毒物が脊椎動物の神経系ならびにその発生過程に及ぼす影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
藤野 貴広	総合科学研究支援センター	准教授	脂質代謝に於ける脂溶性難分解毒性物質の動態	化学汚染・毒性解析部門
佐野 栄	教育学部理科教育	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	生態系解析部門
小南 哲也	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	海産動物である棘皮動物（特にウニ）を用いた発生学的研究	生態系解析部門
中島 敏幸	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	生態系解析部門
佐藤 康	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	生態系解析部門
金田 剛史	理工学研究科環境機能科学専攻	講師	藻類の形態形成に関する研究	生態系解析部門
井上 幹生	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	河川性魚類の生息環境の解析	生態系解析部門
畑 啓生	理工学研究科環境機能科学専攻	助教	沿岸魚類群集の解析	生態系解析部門
渡辺 浩三	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	河川生態に関する研究	生態系解析部門
渡辺 誠也	農学部生物資源学科	准教授	海洋細菌のバイオテクノロジー	生態系解析部門

12. 客員研究員名簿

(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規則(14章参照)に基づき委嘱された学外の協力研究者)

(平成26年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
高橋 暁	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター 地質情報研究部門 沿岸海洋研究グループ	グループ長	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析部門
森本 昭彦	名古屋大学地球水循環研究センター	准教授	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析部門
松野 健	九州大学応用力学研究所地球環境力学部門	教授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析部門
市川 香	九州大学応用力学研究所地球環境力学部門	准教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析部門
清水 学	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所 海洋・生態系研究センター 生態系モデルグループ	グループ長	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析部門
速水 祐一	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター	准教授	沿岸海域における物質輸送、物理生物相互作用に関する研究	環境動態解析部門
木村 伸吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系	教授	海洋生物資源解析に関する研究	環境動態解析部門
井内 美郎	早稲田大学 人間科学学術院	教授	瀬戸内海の堆積物に関する研究	環境動態解析部門
兼田 淳史	福井県立大学 海洋生物資源学部	准教授	豊後水道の物理環境に関する研究	環境動態解析部門
奈良 正和	高知大学教育研究部自然科学系理学部門	准教授	瀬戸内海の海底堆積物と底生動物に関する研究	環境動態解析部門
山口 一岩	香川大学農学部 応用生物科学科	准教授	人間活動が沿岸環境に及ぼす影響に関する研究	環境動態解析部門
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所 環境計測研究センター	上級首席研究員	多環芳香族炭化水素、有機スズ化合物、重金属類およびPOPs関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所環境リスク研究センター 生態系影響評価研究室	室長	巻貝類の内分泌攪乱の実態及び機構の解明	化学汚染・毒性解析部門
森 千里	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学領域	教授	内分泌攪乱物質の人体汚染における生殖機能や次世代に対する影響	化学汚染・毒性解析部門
小宮山政敏	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学領域	教授	GFPマウスを用いた精子形成障害評価法の開発と生殖障害のメカニズムの解析	化学汚染・毒性解析部門
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	理事	鯨類と海洋生態系における環境化学物質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関する研究	化学汚染・毒性解析部門

12. 客員研究員名簿

高田 秀重	東京農工大学農学部 環境資源科学科	教授	東南アジア地域における微量有機汚染物質の分布・発生源・動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
井口 泰泉	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター	教授	内分泌攪乱物質	化学汚染・毒性解析部門
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究大学院資源生物科学部門	教授	水生生物における化学物質の影響	化学汚染・毒性解析部門
有菌 幸司	熊本県立大学 環境共生学部	教授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
國頭 恭	信州大学理学部 物質循環学科	准教授	微量元素の環境モニタリングおよび環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
渡邊 泉	東京農工大学大学院 農学研究科物質循環環境科学部門	准教授	野生生物の微量元素汚染および毒性影響の解明	化学汚染・毒性解析部門
山田 格	国立科学博物館 動物研究部	グループ長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
滝上 英孝	国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター ライフサイクル物質管理研究室	室長	バイオアッセイ/化学分析を用いた残留性化学物質の包括評価と管理手法の開発	化学汚染・毒性解析部門
篠原 亮太	熊本県立大学 環境共生学部	教授	PCBs 代謝物の分析法開発と環境動態解析および生態リスク評価	化学汚染・毒性解析部門
堤 裕昭	熊本県立大学 環境共生学部	教授	有明海の生物生産と海洋環境保全	化学汚染・毒性解析部門
木暮 一啓	東京大学大気海洋研究所 海洋生態系動態部門	教授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析部門
永田 俊	東京大学大気海洋研究所 海洋化学部門	教授	水圏における溶存態有機物の動態に関わる微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析部門
木下 泉	高知大学教育研究部総合科学系	教授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生態系解析部門
伊谷 行	高知大学教育研究部人文社会科学系	准教授	海洋生物の共生に関する研究	生態系解析部門
野中 里佐	獨協医科大学 医学部微生物学講座	助教	薬剤耐性菌の環境中動態に関する研究	生態系解析部門
中野 伸一	京大大学生態学研究センター	教授	海洋食物網の動態解明	生態系解析部門
上田 拓史	高知大学教育研究総合科学系	教授	海洋生物に関する研究	生態系解析部門
山田 佳裕	香川大学農学部 応用生物科学科	准教授	水域生態系における物質循環	生態系解析部門
大林由美子	横浜国立大学大学院工学研究院	研究員	生物地球化学的物質循環における海洋微生物群集の機能に関する研究	生態系解析部門
磯辺 篤彦	九州大学応用力学研究所 附属東アジア海洋大気環境研究センター	教授	瀬戸内海の海洋循環や漂着プラスチックゴミに関する研究	環境動態解析部門
槻木 玲美	松山大学法学部法学科	准教授	湖沼・沿岸域生態系の過去100年にわたるプランクトン動態に関する研究	環境動態解析部門
磯部 友彦	独立行政法人 国立環境研究所環境健康研究センター (総合影響評価研究室)	主任研究員	生体試料中有機汚染物質の新規微量分析法開発とヒト曝露評価手法の確立	化学汚染・毒性解析部門

13. 運営委員会

(平成26年度)

委員長	武岡英隆	沿岸環境科学研究センター長教授
委員	藤江啓子	法文学部教授
委員	日詰雅博	教育学部教授
委員	中島敏幸	大学院理工学研究科（理）准教授
委員	山下政克	大学院医学系研究科教授
委員	井内國光	大学院理工学研究科（工）准教授
委員	竹内一郎	農学部教授
委員	菊川昭治	研究支援部部長
委員	田辺信介	沿岸環境科学研究センター教授
委員	鈴木聡	沿岸環境科学研究センター教授
委員	岩田久人	沿岸環境科学研究センター教授
委員	国末達也	沿岸環境科学研究センター教授
委員	郭新宇	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	大森浩二	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	北村真一	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	加三千宣	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	磯部友彦	沿岸環境科学研究センター准教授

14. センター規則および運営委員会規程

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究部門を置く。

- (1) 環境動態解析部門
- (2) 化学汚染・毒性解析部門
- (3) 生態系解析部門
- (4) 国際・社会連携部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) 兼任教員
- (4) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 センターに、前項のほか、副センター長を置くことができる。

(先端研究推進会議)

第5条 センターの業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究・学術推進機構先端研究推進会議（以下「先端研究推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長及び副センター長は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長及び副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長又は副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、それぞれ前任者の残任期間とする。

3 前項の規定にかかわらず、副センター長の任期は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

(兼任教員)

第9条 兼任教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、

前任者の残任期間とする。

- 3 前項の規定にかかわらず、兼任教員の任期は、センター長の任期の末日を超えることができない。

(職務)

第10条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を遂行する。
- 4 兼任教員は、専任教員とともにセンターの業務を遂行する。
- 5 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第11条 センターに、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
- 3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。
- 4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第12条 センターに、客員研究員を置くことができる。

- 2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(利用)

第13条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(生物環境試料バンク)

第14条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

- 2 バンクに関する規程は、別に定める。

(研究生)

第15条 センターは、研究生を受け入れることができる。

- 2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第16条 センターに関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第17条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

14. センター規則および運営委員会規程

この規則は、平成22年4月14日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年9月7日から施行し、平成22年7月7日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年2月18日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日
規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) 副センター長（副センター長を置く場合に限る。）
 - (3) センターの講師以上の専任教員
 - (4) 各学部の専任教員 各1人
 - (5) 研究支援部長
 - (6) その他委員長が必要と認めた者
- 2 前項第4号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。
- 3 第1項第6号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。
- 4 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年2月18日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第13条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 試料バンク長

(2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

14. センター規則および運営委員会規程

附 則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

発行 2015年9月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167
印刷 創風社出版

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。

